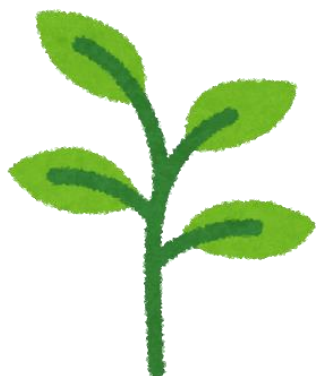


令和5年度 全国学力・学習状況調査

— 鈴鹿市の結果概要 —



令和5年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

1	調査の目的	1
2	調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）	1
3	調査日・内容	1
4	調査結果の概要	
	（1） 本年度の平均正答率	2
	（2） 経年変化	3
5	【教科に関する調査】の結果	
	（1） 小学校 国語	5
	（2） 小学校 算数	6
	（3） 中学校 国語	7
	（4） 中学校 数学	8
	（5） 中学校 英語	9
6	各教科に関する質問紙調査の結果	
	（1） 小学校国語に関する質問紙調査の結果	10
	（2） 小学校算数に関する質問紙調査の結果	12
	（3） 中学校国語に関する質問紙調査の結果	13
	（4） 中学校数学に関する質問紙調査の結果	15
	（5） 中学校英語に関する質問紙調査の結果	17
7	鈴鹿市の重点取組等に関する【児童生徒質問紙調査】の結果	
	（1） 自己有用感、幸福感等に関する状況	21
	（2） 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	28
	（3） 家庭学習、学習環境等（家庭学習、読書）に関する取組状況	32
	（4） ICTを活用した学習状況	37

1 調査の目的

- 1 全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることを目的として実施される。
- 2 市内すべての学校において、児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。

2 調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科） 実施校数	実施児童生徒数		
		国語	算数・数学	英語
小学校6年生	30校	1,638人	1,639人	話すこと（1,511人）
中学校3年生	10校	1,661人	1,665人	

3 調査日・内容

<調査日> 令和5年4月18日（火）

<調査内容>

- ・ 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則として、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりになっている。

	国語		算数			
	小学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項	5問	◎数と計算		6問
	◎情報の扱い方に関する事項	2問	◎図形	4問		
	◎話すこと・聞くこと	3問	◎変化と関係	4問		
	◎書くこと	1問	◎データの活用	3問		
	◎読むこと	3問				
	国語		数学		英語	
	◎言葉の特徴や使い方に関する事項	2問	◎数と式	5問	◎聞くこと	6問
中学校	◎情報の扱い方に関する事項	2問	◎図形	3問	◎読むこと	6問
	◎我が国の言語文化に関する事項	3問	◎関数	4問	◎書くこと	5問
	◎話すこと・聞くこと	3問	◎データの活用	3問	◎話すこと	5問
	◎書くこと	2問				
	◎読むこと	4問				

- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査結果の概要

(1) 本年度の平均正答率

- 小学校，中学校ともに実施された全ての教科において，全国の平均正答率を下回った。

表1 令和5年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語	算数
鈴鹿市	67	62
三重県（公立）	67	62
全国（公立）	67.2	62.5

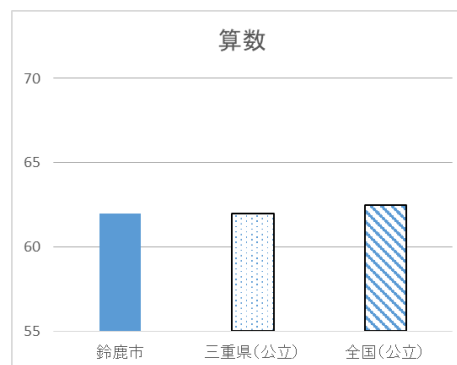
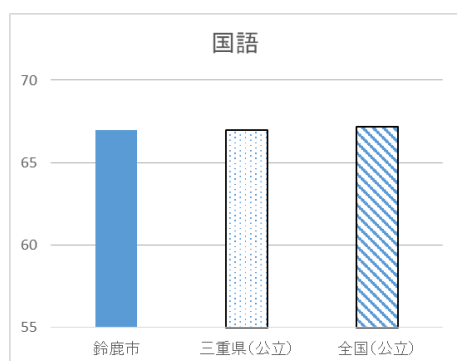
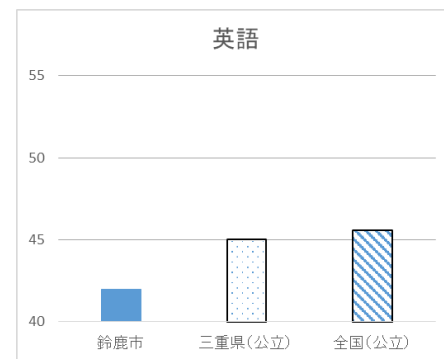
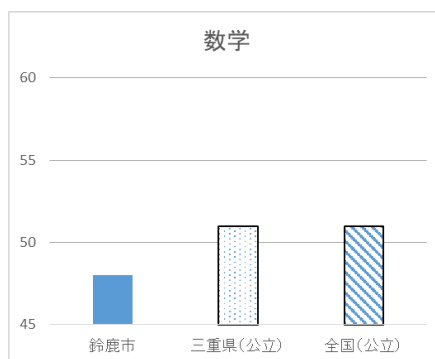
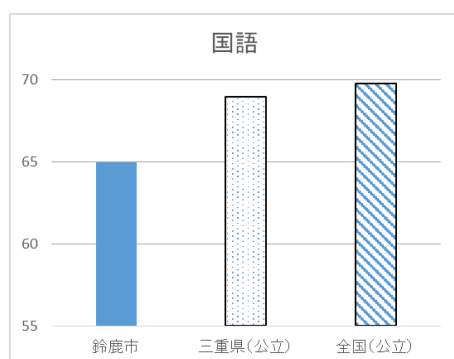


表2 令和5年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語	数学	英語
鈴鹿市	65	48	42
三重県（公立）	69	51	45
全国（公立）	69.8	51.0	45.6



(2) 経年変化

- 小学校は、国語・算数いずれも全国平均をわずかに下回ったものの、前年度よりも改善し全国平均正答率との差が縮まった。
- 中学校は、平成30年度以降は、国語・数学ともに改善傾向にあったが、実施された全ての教科において全国平均正答率を3ポイント以上下回った。
- 中学校国語は、平成19年度の調査開始以降全国との差が最も広がった。

表3 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（小6）（%）

小学校		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	70	70.7	64	63.8	64	64.7	63	65.6	67	67.2
	B	53	54.7								
算数	A	63	63.5	66	66.6	70	70.2	62	63.2	62	62.5
	B	50	51.5								
理科		58	60.3	—	—	—	—	63	63.3	—	—

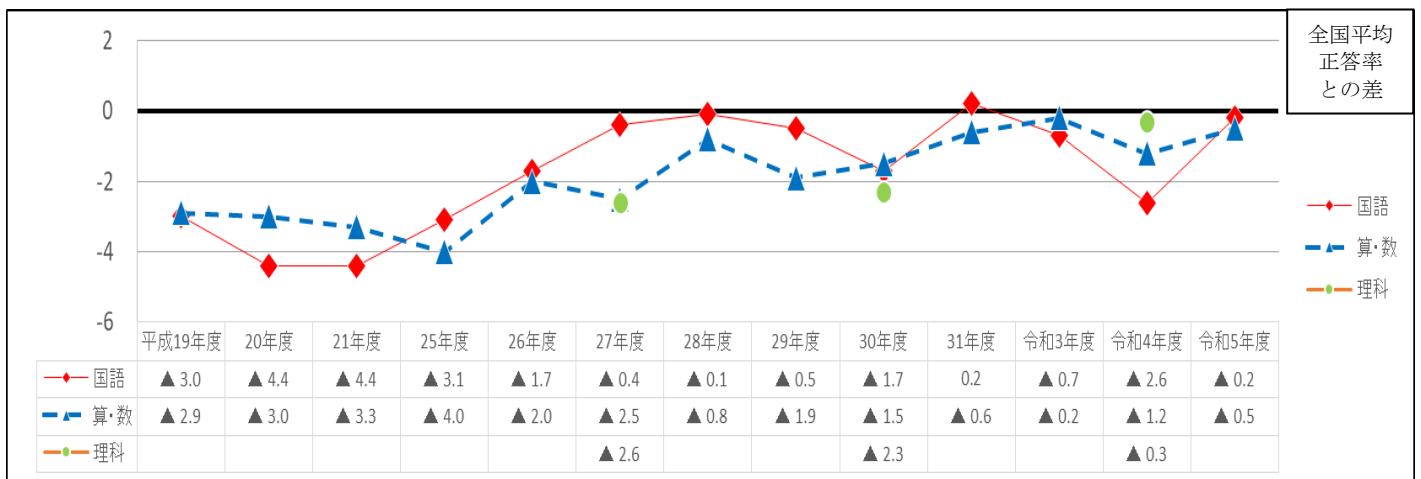


図1 鈴鹿市と全国平均値との差の経年変化（小6）

※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度、24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は、東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

表4 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（中3）（％）

中学校		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	74	76.1	69	72.8	61	64.6	66	69.0	65	69.8
	B	57	61.2								
数学	A	65	66.1	57	59.8	56	57.2	50	51.4	48	51.0
	B	43	46.9								
理科		65	66.1	—	—	—	—	46	49.3	—	—
英語		—	—	53	56.0	—	—	—	—	42	45.6

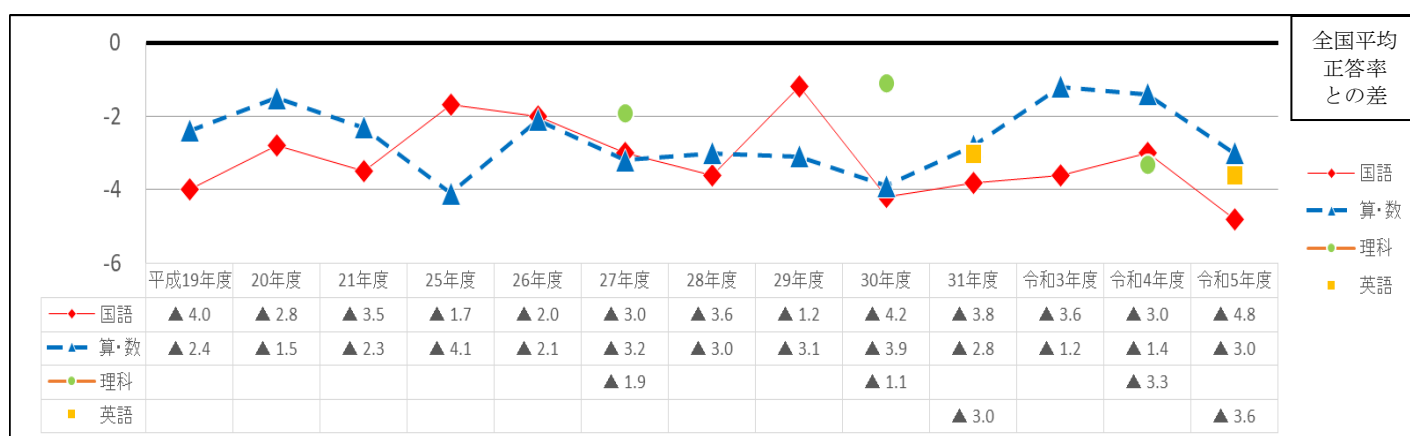


図2 鈴鹿市と全国平均値との差の経年変化（中3）

※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度，24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は，東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

5 【教科に関する調査】の結果

(1) 小学校 国語

※全国平均正答率との比較について

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均正答率を上回った。
- 令和4年度と比較するとすべての領域で差が縮まっており、特に「読むこと」に関する領域は、大きく改善されている。
- 「記述式」の問題の平均正答率が調査開始以降、初めて全国平均を上回った。
- 「書くこと」は、改善傾向にあるが、全項目の中で全国との差が最も開いている。

表5 小学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校国語		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	64	64.7	-0.7	63	65.6	-2.6	67	67.2	-0.2
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	68.3	0.2	68.0	69.0	-1.0	72.3	71.2	1.1
	情報の扱い方に関する事項	-	-	-	-	-	-	63.4	63.4	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	-	-	-	80.7	77.9	1.1	-	-	-
	話すこと・聞くこと	77.5	77.8	-0.3	62.8	66.2	-3.4	72.5	72.6	-0.1
	書くこと	61.3	60.7	0.6	45.4	48.5	-3.1	25.4	26.7	-1.3
	読むこと	44.0	47.2	-3.2	62.1	66.6	-4.5	70.7	71.2	-0.5
問題形式	選択式	72.2	71.7	0.5	70.2	71.8	-1.6	73.5	73.6	-0.1
	短答式	68.9	70.6	-1.7	62.1	63.6	-1.5	63.7	62.7	1.0
	記述式	37.9	40.2	-2.3	45.9	51.3	-5.4	51.4	51.1	0.3

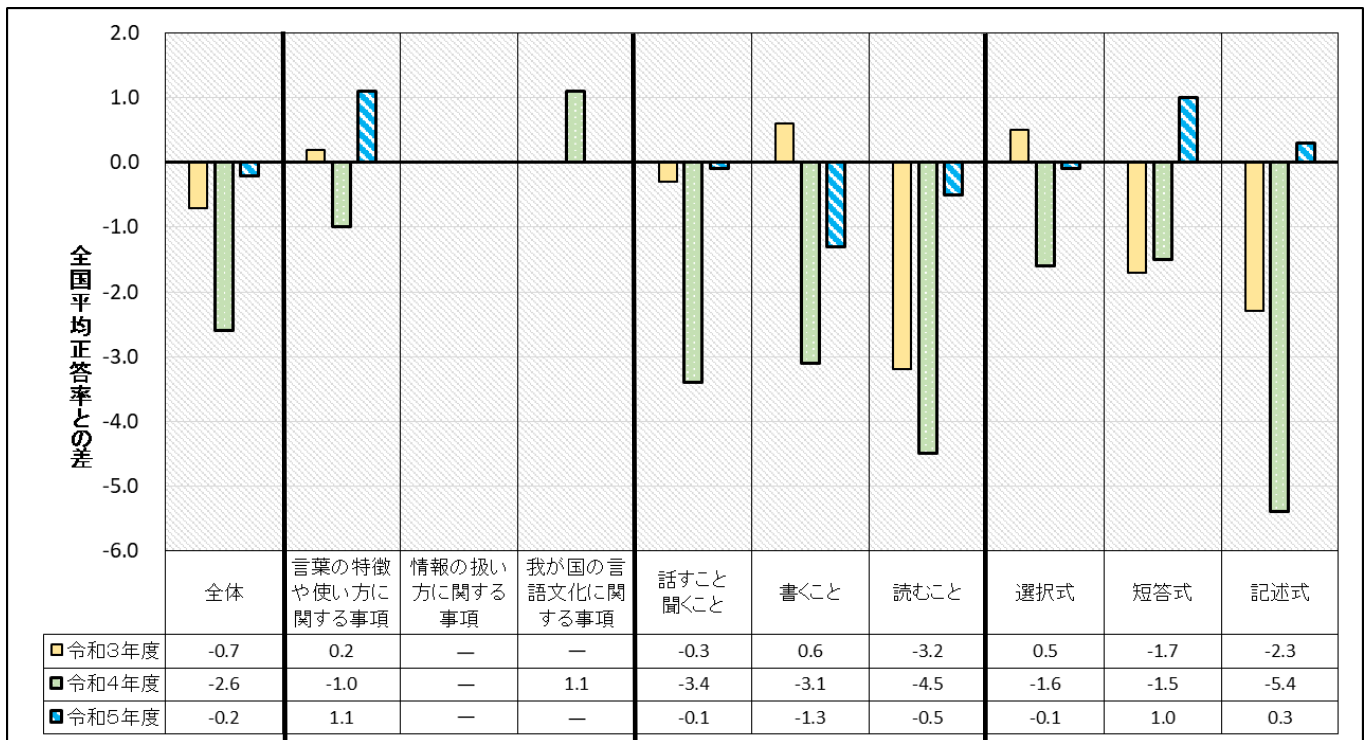


図3 小学校 国語（R3～R5 経年変化）

(2) 小学校 算数

※全国平均正答率との比較について

- 「数と計算」「図形」「データの活用」領域は、全国平均正答率を下回るものの、令和4年度と比較すると改善されている。
- 「図形」領域は、2年連続で改善されている。
- 「選択式」の問題は、全国平均正答率を上回った。
- 「記述式」の問題は、令和4年度と比較すると全国との差が大きく開いている。

表6 小学校算数における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（%）

小学校算数		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	70	70.2	-0.2	62	63.2	-1.2	62	62.5	-0.5
学習 指導要領 の領域等	数と計算	63.1	63.1	0.0	68.2	69.8	-1.6	66.6	67.3	-0.7
	図形	54.4	57.9	-3.5	62.6	64.0	-1.4	47.2	48.2	-1.0
	測定	74.0	74.8	-0.8	-	-	-	-	-	-
	変化と関係	75.1	75.9	-0.8	51.6	51.3	0.3	70.1	70.9	-0.8
	データの活用	76.7	76.0	0.7	65.4	68.7	-3.3	64.9	65.5	-0.6
問題形式	選択式	76.6	76.0	0.6	50.1	51.8	-1.7	57.9	57.7	0.2
	短答式	74.3	75.8	-1.5	75.3	76.5	-1.2	74.5	74.7	-0.2
	記述式	51.9	53.0	-1.1	59.9	60.2	-0.3	44.6	47.3	-2.7

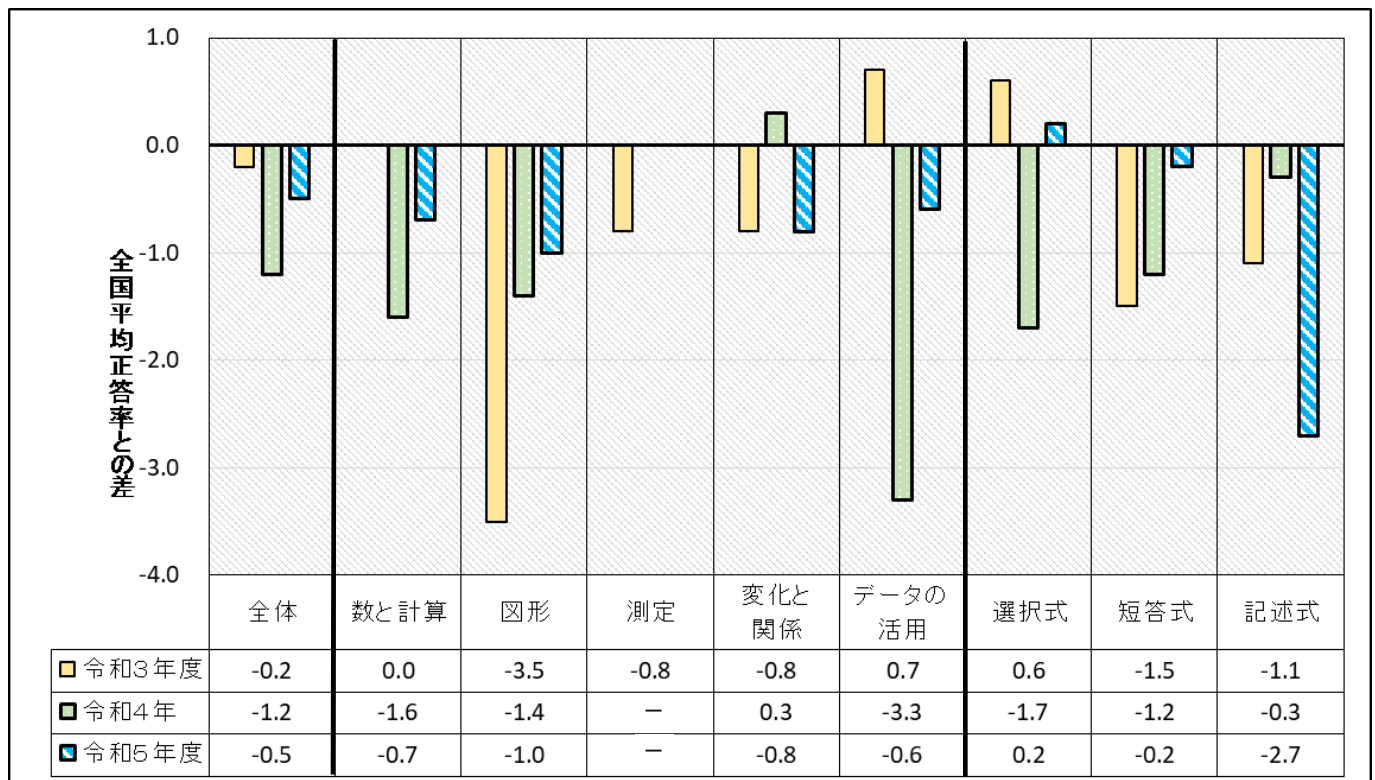


図4 小学校 算数（R3～R5 経年変化）

(3) 中学校 国語

※全国平均正答率との比較について

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」は、令和4年度と比較すると改善されている。
- 「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」は、全国平均正答率を5ポイント以上下回っている。
- 令和4年度には全国平均正答率を上回っていた「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」が、いずれも全国平均正答率を下回った。

表7 中学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校国語		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		61	64.6	-3.6	66	69.0	-3.0	65	69.8	-4.8
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	—	—	—	69.1	72.2	-3.1	65.4	67.5	-2.1
	情報の扱い方に関する事項	—	—	—	48.6	46.5	2.1	60.0	63.4	-3.4
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	75.1	-3.0	68.5	70.2	-1.7	68.1	74.7	-6.6
	話すこと・聞くこと	77.3	79.8	-2.5	60.8	63.9	-3.1	79.9	82.2	-2.3
	書くこと	52.4	57.1	-4.7	48.6	46.5	2.1	58.9	63.2	-4.3
	読むこと	44.3	48.5	-4.2	63.6	67.9	-4.3	58.0	63.7	-5.7
問題形式	選択式	60.4	63.9	-3.5	71.4	73.7	-2.3	70.3	73.1	-2.8
	短答式	72.1	74.4	-2.3	66.8	70.3	-3.5	60.3	65.6	-5.3
	記述式	51.1	56.0	-4.9	55.9	57.4	-1.5	62.2	68.0	-5.8

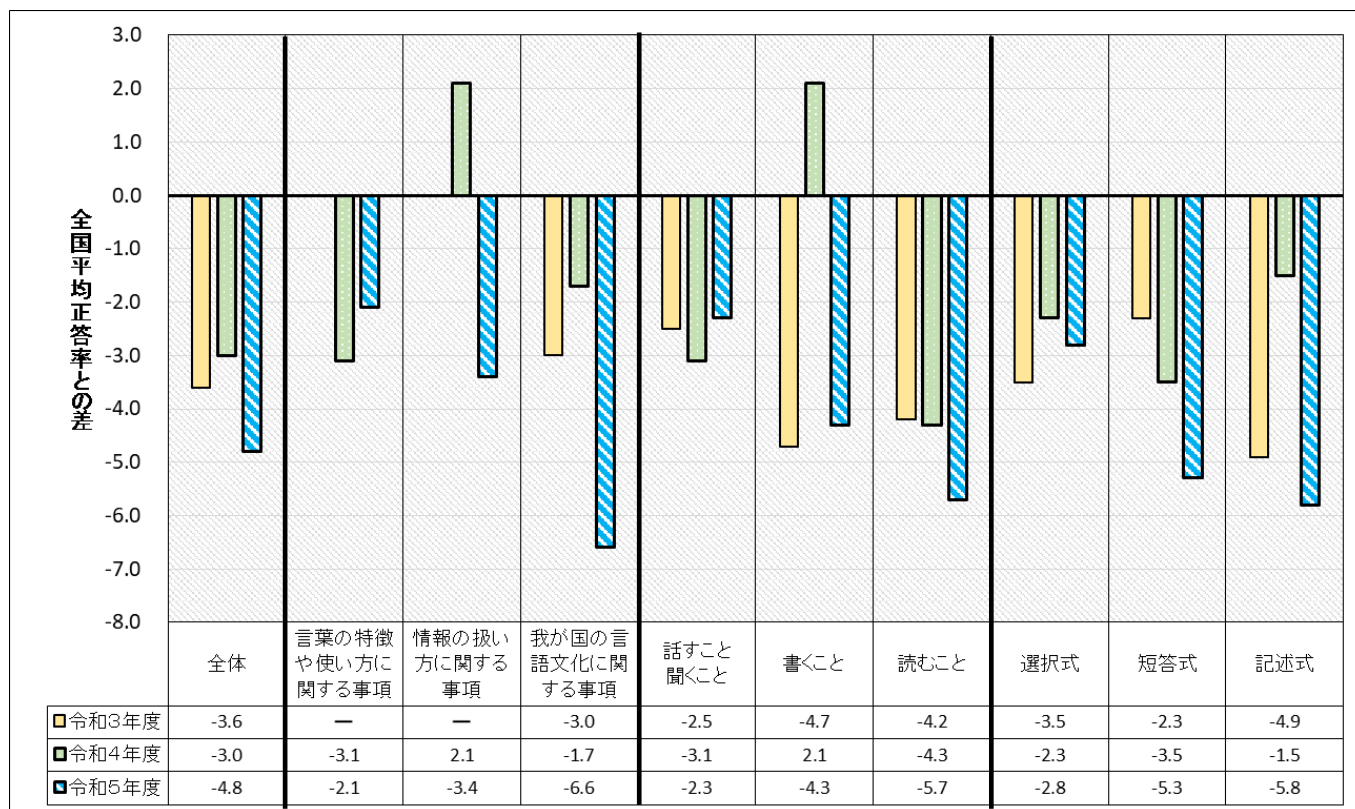


図5 中学校 国語 (R3~R5 経年変化)

(4) 中学校 数学

※全国平均正答率との比較について

- 令和4年度と比較すると「関数」以外の領域は、すべて全国平均正答率との差が広がっている。
- 「図形」領域は、全国平均正答率との差が最も大きい。
- 問題形式においては、「選択式」の問題が全国平均正答率との差が最も広がっている。

表8 中学校数学における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校数学		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	56	57.2	-1.2	50	51.4	-1.4	48	51.0	-3.0
	数と式	61.8	64.9	-3.1	54.3	57.4	-3.1	59.5	63.0	-3.5
	図形	48.9	51.4	-2.5	41.1	43.6	-2.5	28.3	33.2	-4.9
	関数	55.7	56.4	-0.7	40.9	43.6	-2.7	49.0	51.2	-2.2
	データの活用	54.7	53.8	0.9	58.7	57.1	1.6	47.2	48.5	-1.3
問題形式	選択式	52.0	52.4	-0.4	51.0	52.6	-1.6	42.1	45.3	-3.2
	短答式	69.0	70.5	-1.5	64.3	65.7	-1.4	59.7	62.6	-2.9
	記述式	33.0	35.0	-2.0	33.5	36.2	-2.7	38.6	41.6	-3.0

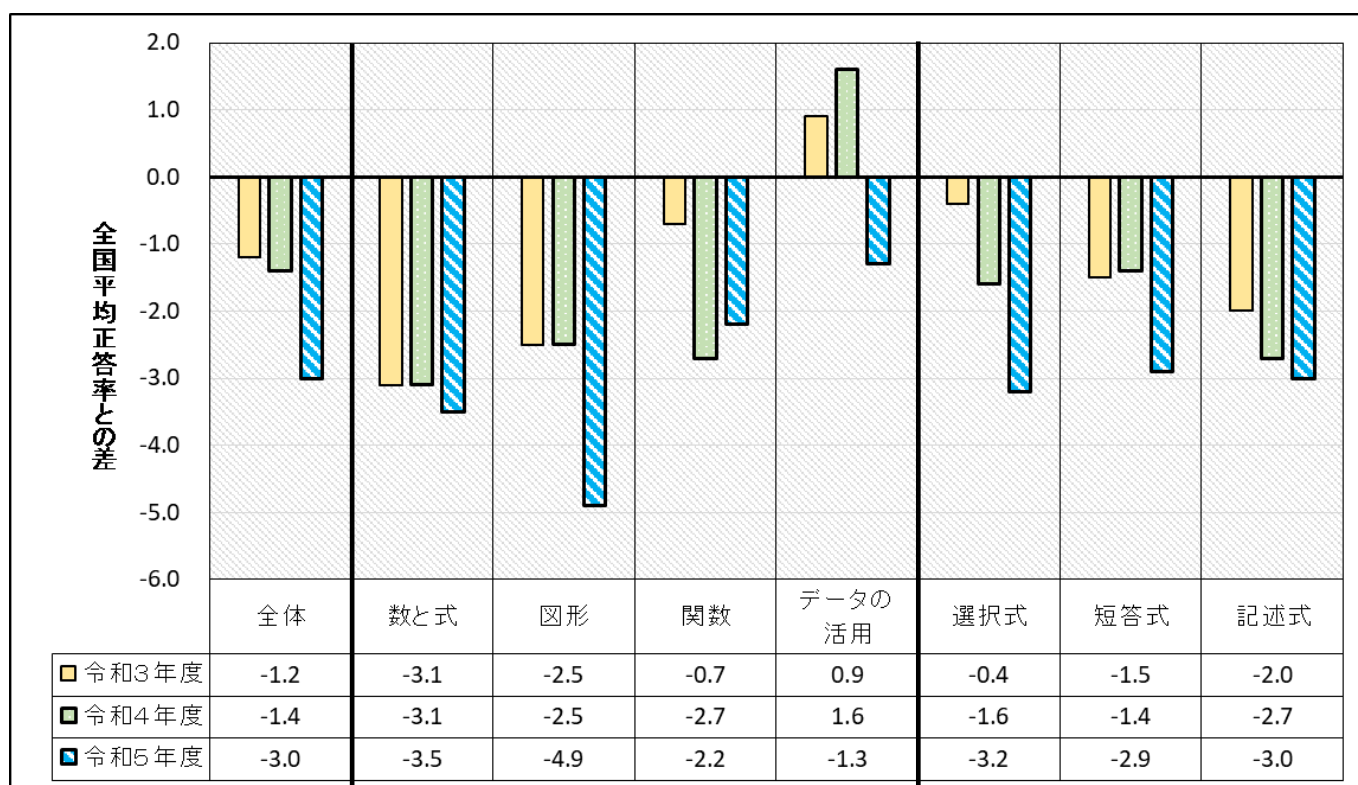


図6 中学校 数学（R3～R5 経年変化）

(5) 中学校 英語

※全国平均との比較について

- 平成31年度と比較すると、「読むこと」を除いては、全国平均正答率との差が広がっている。
- 「話すこと【やりとり】【発表】」は、いずれも平均正答率が1割を下回っている。
- 「話すこと【やりとり】」については、全国平均正答率との差が5ポイント以上下回っている。

表9 中学校英語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校英語		平成31年度			令和5年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	53	56.0	-3.0	42	45.6	-3.6
学習 指導要領 の領域	聞くこと	65.4	67.9	-2.5	53.7	58.4	-4.7
	話すこと【やりとり】	-	-	-	8.6	14.5	-5.9
	話すこと【発表】	-	-	-	2.4	4.2	-1.8
	読むこと	52.4	55.6	-3.2	48.0	51.2	-3.2
	書くこと	43.9	45.8	-1.9	19.7	23.4	-3.7
問題形式	選択式	68.7	71.4	-2.7	50.8	54.8	-4.0
	短答式	43.2	45.2	-2.0	26.8	30.1	-3.3
	記述式	4.8	6.8	-2.0	9.0	13.5	-4.5

平成31年度の「話すこと」については、国の公表数値が「参考値」であるため、数値では表記していません。

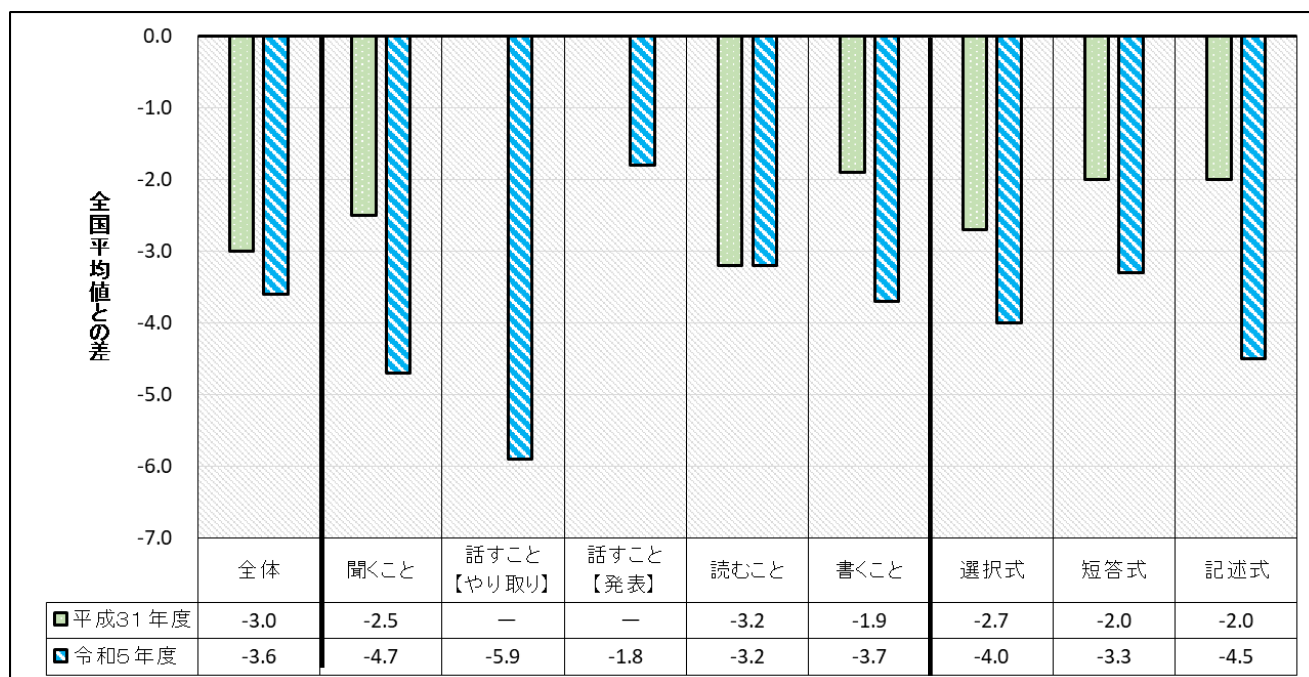


図7 中学校 英語（H31・R5 経年変化）

6 各教科に関する質問紙調査の結果

本稿の見方

- * 質問文は、令和5年度調査を掲載している。なお、令和3年度、令和4年度とわずかに文言が異なる質問については、同質問と捉え、データを記載している。
- * 肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（又は、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を示す。
- * 肯定的回答の割合が全国平均より上回る（◎）又は、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る（○）ものについては成果としている。
- * 肯定的回答の割合が70%未満又は、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについては、課題（●）と捉え、各表の令和5年度の鈴鹿市の数値を四角囲みで表記している。
※質問によっては、実態を把握するにとどめ、課題として取り上げなかった項目もある。
- * 児童・生徒質問紙と学校質問紙の両方の結果を照合し、校種・教科別に課題を記載している。

(1) 小学校国語に関する質問紙調査の結果

<児童質問紙調査>

- 国語の勉強が好きと回答している児童の割合
- 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている児童の割合

<学校質問紙調査>

- ◎ 前年度までに、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行うこと
- ◎ 前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行うこと
- ◎ 前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような授業を行うこと

児童質問紙

表10 児童の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
43	国語の勉強は好きですか	50.2	54.2	54.0	61.5	▲7.5
44	国語の勉強は大切だと思いますか	93.3	92.9	92.4	94.2	▲1.8

45	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.1	80.4	83.1	85.7	▲2.6
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.2	90.5	89.8	92.8	▲3.0
47	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか【新規】	—	—	80.7	83.9	▲3.2
48	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか【新規】	—	—	73.0	76.8	▲3.8
49	国語の授業で、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか【新規】	—	—	64.2	71.1	▲6.9
50	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか【新規】	—	—	78.1	82.3	▲4.2

表 1 1 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における割合（％）

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
国 1	解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	80.6	74.8	79.6	80.7	▲1.1

学校質問紙

表 1 2 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
43	前年度までに、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行いましたか	90.0	96.7	96.6	93.2	+3.4
44	前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか	93.3	90.0	96.7	92.4	+4.3
45	前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような授業を行いましたか	90.0	100.0	100.0	96.8	+3.2

(2) 小学校算数に関する質問紙調査の結果

<児童質問紙調査>

- 算数の勉強が好きと回答している児童の割合

<学校質問紙調査>

- ◎ 前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったこと
- ◎ 前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形についての実感を伴った理解をする活動を行ったこと
- ◎ 前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したこと

児童質問紙

表 1 3 児童の「算数の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
51	算数の勉強は好きですか	68.7	61.7	59.6	61.4	▲1.8
52	算数の勉強は大切だと思いますか	94.7	93.9	93.4	94.2	▲0.8
53	算数の授業の内容はよく分かりますか	85.1	80.4	78.2	81.2	▲3.0
54	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.1	93.4	92.5	93.3	▲0.8

表 1 4 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
算 1	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	79.8	82.0	77.6	80.3	▲2.7

学校質問紙

表 1 5 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
46	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	83.3	96.7	100.0	92.1	+7.9
47	前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形についての実感を伴った理解をする活動を行いましたか	93.3	93.4	96.7	94.6	+2.1
48	前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	93.3	100.0	100.0	97.9	+2.1

(3) 中学校国語に関する質問紙調査の結果

<生徒質問紙調査>

- ◎ 国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合
- ◎ 国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合
- 国語の勉強が好きと回答した生徒の割合
- 国語の授業で自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していると回答した生徒の割合
- 国語の授業で自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていると回答した生徒の割合
- 解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合

<学校質問紙調査>

- ◎ 前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行うこと
- ◎ 前年度までに、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行うこと

生徒質問紙

表 1 6 生徒の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
47	国語の勉強は好きですか	62.2	62.3	60.4	61.4	▲1.0
48	国語の勉強は大切だと思いますか	92.7	94.2	92.7	92.4	+0.3
49	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.2	83.9	81.1	80.0	+1.1
50	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.8	91.2	88.2	88.7	▲0.5
52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか【新規】	—	—	61.3	65.9	▲4.6
53	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか【新規】	—	—	62.2	63.9	▲1.7
54	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか【新規】	—	—	76.2	77.2	▲1.0

表 17 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
国 1	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	74.5	79.1	68.0	74.3	▲6.3

学校質問紙

表 18 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
43	前年度までに、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか。	90.0	100.0	90.0	94.0	▲4.0
44	前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行いましたか	90.0	100.0	100.0	94.0	+6.0
45	前年度までに、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行いましたか	100.0	90.0	100.0	98.5	+1.5

(4) 中学校数学に関する質問紙調査の結果

＜生徒質問紙調査＞

- ◎ 数学の授業の内容はよく分かると回答している生徒の割合
- ◎ 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答している生徒の割合
- 言葉や数、式を使って説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力すること
- ※ 「数学の勉強が好き」と肯定的回答をしている生徒の割合は全国平均を上回っているが、肯定的回答をしている割合が70%未満である

＜学校質問紙調査＞

- ◎ 前年度までに実生活における事象との関連を図った授業を行うこと
- 前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行うこと
- ◎ 前年度までに、公式やきまり等を指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫すること

生徒質問紙

表19 生徒の「数学の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
55	数学の勉強は好きですか	60.3	57.6	59.4	56.7	+2.7
56	数学の勉強は大切だと思いますか	84.3	86.1	84.6	85.0	▲0.4
57	数学の授業の内容はよく分かりますか	74.2	79.3	74.2	73.3	+0.9
58	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	76.3	77.5	75.9	75.8	+0.1

表20 生徒の「調査問題(数学)の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
数1	解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか(※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	59.6	54.8	56.1	57.1	▲1.0

学校質問紙

表 2 1 「数学科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R5 質問 番号	質 問	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
46	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	80.0	80.0	100.0	88.0	+12.0
47	前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	50.0	50.0	80.0	84.3	▲4.3
48	前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	100.0	100.0	100.0	97.6	+2.4

(5)中学校英語に関する質問紙調査の結果

<生徒質問紙調査>

- ◎ 1, 2年のときに受けた授業では, 英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行なわれていたと思うこと
- ◎ 1, 2年のときに受けた授業では, 英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行なわれていたと思うこと
- ◎ 1, 2年のときに受けた授業では, スピーチやプレゼンテーションなど, まとまった内容を英語で発表する活動が行なわれていたと思うこと
- ◎ 1, 2年のときに受けた授業では, 自分の考えや気持ちやなどを英語で書く活動が行なわれていたと思うこと
- 英語の勉強が好きと回答している生徒の割合
- 英語の授業の内容はよく分かると回答している生徒の割合
- 将来, 積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思う生徒の割合
- これまで, 学校の授業やそのための学習以外で, 日常的に英語を使う機会が十分にあると回答した生徒の割合
- まとまりのある文章を書く問題について, 「書く内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ」と回答した生徒の割合
- ※ 「1, 2年のときに受けた授業では, 原稿などの準備をすることなく, (即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行なわれていたと思う」と回答している生徒の割合は, 全国平均を上回っているが, 肯定的回答をしている割合が, 70%未満である。

<学校質問紙調査>

- ◎ 前年度までに, 聞いたり読んだりしたことについて, 生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行うこと
- ◎ 前年度までに, 聞いたり読んだりしたことについて, その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行うこと
- ◎ 英語担当教員とALTとの間で, 授業のねらいや活動の意図, 各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち, 協力して授業を行うこと
- ◎ 全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて, 言語活動の充実等の授業改善や, 定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組むこと
- 前年度までに, 原稿などの準備をすることなく, (即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行うこと

生徒質問紙

表 2 2 生徒の「英語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
59	英語の勉強は好きですか	53.8	46.3	51.9	▲5.6
60	英語の勉強は大切だと思いますか	83.5	86.8	88.0	▲1.2
61	英語の授業の内容はよく分かりますか	66.0	59.2	63.9	▲4.7
62	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	84.4	86.2	87.5	▲1.3
63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	39.9	33.2	36.7	▲3.5
64	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか	31.1	27.9	30.0	▲2.1
66	1, 2年のときに受けた授業では、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行なわれていたと思いますか	79.0	80.5	78.2	+2.3
67	1, 2年のときに受けた授業では、英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行なわれていたと思いますか	80.2	81.5	80.3	+1.2
68	1, 2年のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行なわれていたと思いますか	58.9	67.8	63.8	+4.0
69	1, 2年のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行なわれていたと思いますか	57.1	79.9	78.7	+1.2
70	1, 2年のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちやなどを英語で書く活動が行なわれていたと思いますか	74.9	83.4	82.8	+0.6

表 2 3 生徒の「調査問題（英語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
英 1	まとまりのある文章を書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか(※「書く内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ」と回答)	-	19.9	22.2	▲2.3

学校質問紙

表 2 4 「英語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R5 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
49	前年度までに、英語を聞いて概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	-	90.0	94.2	▲4.2
50	前年度までに、英語を読んで概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	100.0	100.0	96.1	+3.9

51	前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	30.0	70.0	76.8	▲6.8
52	前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	40.0	60.0	86.9	▲26.9
53	前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか	100.0	90.0	91.9	▲1.9
54	前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	70.0	80.0	74.2	+5.8
55	前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	60.0	80.0	75.4	+4.6
56	英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業ができていると思いますか	100.0	100.0	94.1	+5.9
57	全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んでいますか	-	90.0	88.1	+1.9
58	英語の授業以外にも生徒が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか。 (※「ほぼ毎日」「週に数回以上」「週に1回程度」と回答)	-	10.0	17.0	▲7.0

鈴鹿市の重点取組等に関する【児童生徒質問紙調査】の分析について

まとめ方に関して

○質問項目の抽出理由

- (1) 三重県が令和4年度分析した項目であること
- (2) 鈴鹿市の重点取組に関する項目であること

○4つの分類

- (1) 自己肯定感, 自己有用感等に関する状況
 - 質問番号・・・児童生徒共通 (4) (7) (8) (11) (12) (14) 新規 (15) 新規
- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
 - 質問番号・・・児童 (32) (33) (36) (38) 新規
 - 生徒 (36) (37) (40) (42) 新規
- (3) 家庭学習, 読書に関する取組状況 ※R5はスクリーンタイムに関する質問項目なし
 - 質問番号・・・児童生徒共通 (16) (17) (18) (20) (21) 新規
- (4) ICTを活用した学習状況
 - 質問番号・・・児童 (29) (30) (31) 新規
 - 生徒 (33) (34) (35) 新規

○記述による分析の視点

- (1) R5 鈴鹿市と R4 鈴鹿市の比較, R5 鈴鹿市と R5 全国の比較
 - ※比較の視点としては, 昨年度の国や県を参考にしながら, 肯定的な割合などの視点で分析を行った。
- (2) 鈴鹿市における経年変化 (5年以内) が特徴的なものについて記述
- (3) クロス集計の結果, 平均正答率との相関関係が見られるものについて記述

本年度の結果の概要

本市の結果が全国比, 前年度比ともに上回る(下回る)質問項目	↗	<u>上回る</u> 小 (29), (30) 中 (8), (12), (33) (34)	↘	<u>下回る</u> 小 (12), (16), (17) (18), (32) 中 (7), (11), (16), (17) (18), (20), (36)
本市の結果が前年度よりも大きく(5ポイント以上)上回る(下回る)質問項目	↗	<u>上回る</u> 小 (29) 中 (33)	↘	<u>下回る</u>
経年変化(5年以内)において本年度が最も高い(低い)質問項目	↗	<u>高い</u> 小 (8), (29), (36) 中 (12), (33)	↘	<u>低い</u> 小 (16), (17), (18) 中 (7), (16), (17), (18) (20)

平均正答率と一定の関係性が見られた質問項目	小 (29), (36) 中 (12), (40) ○強い関係性が見られた質問項目 小 (12), (15), (16), (30), (32), (33) (38) 中 (15), (16), (33), (36), (37), (42)
-----------------------	---

鈴鹿市の重点取組等に関する【児童生徒質問紙調査】の結果

- ↗ …本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る(下回る)質問項目
- ↘ …本市の結果が前年度よりも大きく(5ポイント以上)上回る(下回る)質問項目
- ↕ …経年変化(5年以内)において、本年度が最も高い(低い)質問項目

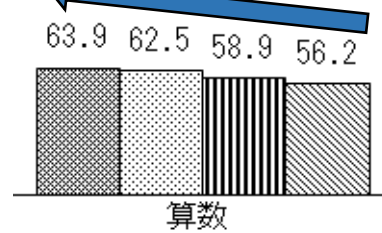
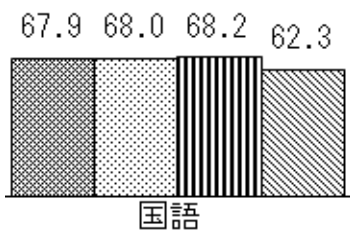
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示している。年度の帯グラフは、本市の経年の状況を示している。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する本市の回答別の平均正答率(R5年度)を示している。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合がある。

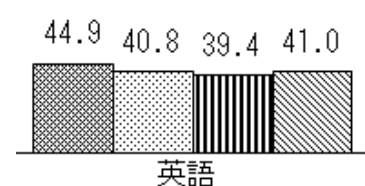
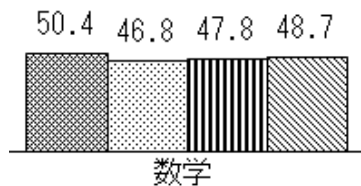
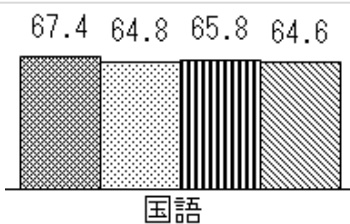
(1) 自己有用感, 幸福感等に関する状況

【児童生徒質問紙】(4)自分には、よいところがありますか

小学生



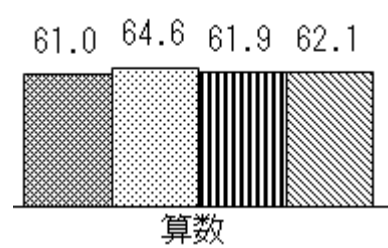
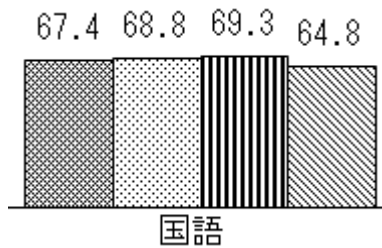
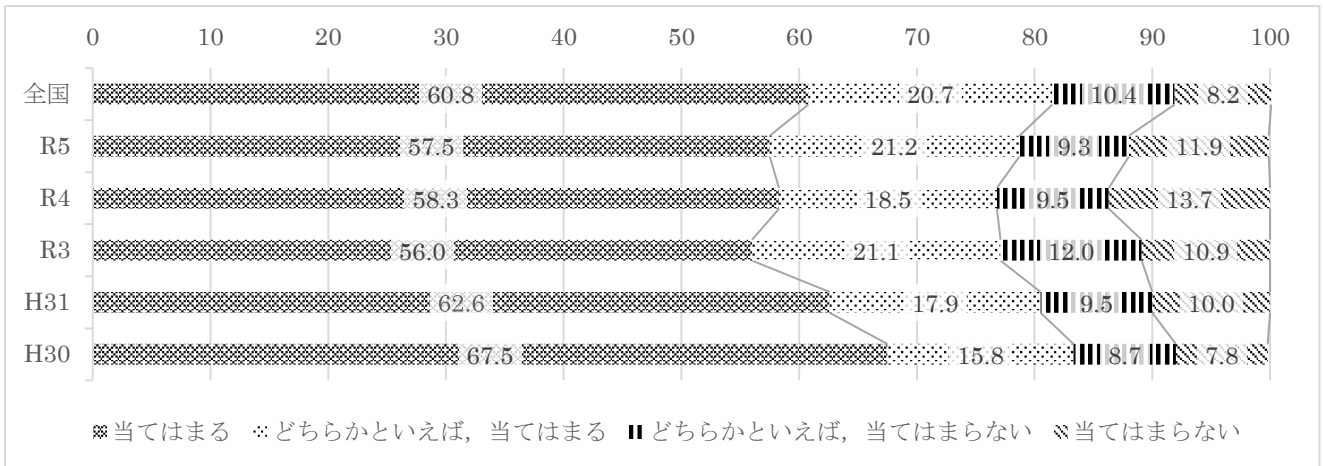
中学生



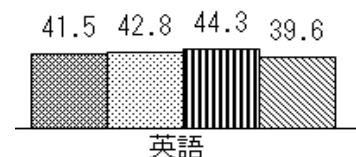
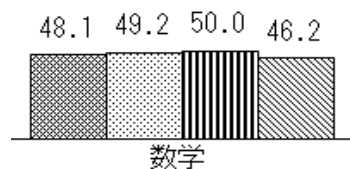
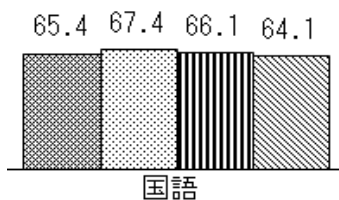
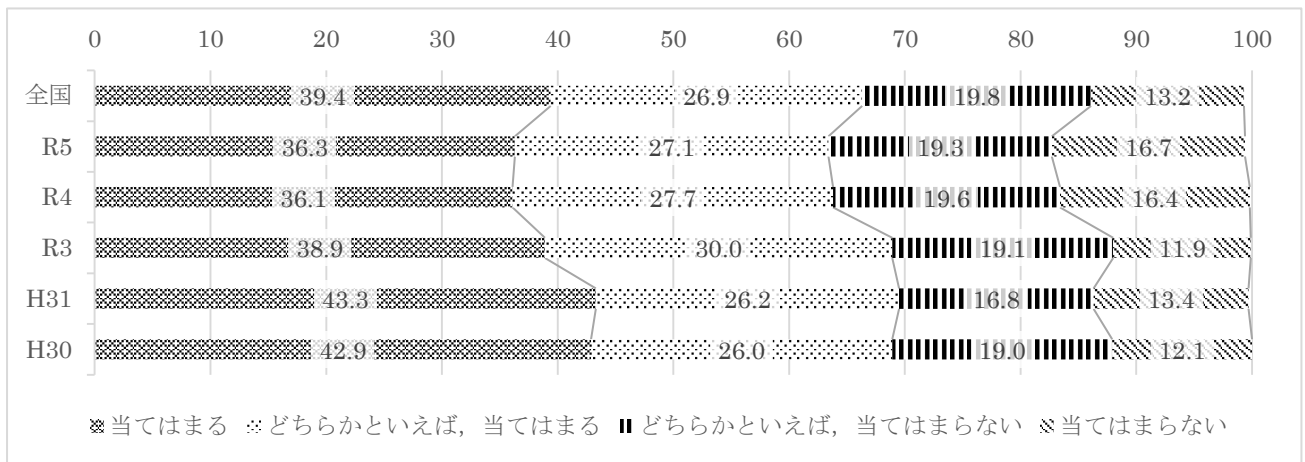
小学生は、肯定的回答割合が77.8%とR4年度の74.9%を上回っているが、全国の83.5%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が76.9%とR4年度の75.7%を上回っているが、全国の80.0%を下回っている。

【児童生徒質問紙】 (7)将来の夢や目標を持っていますか

小学生



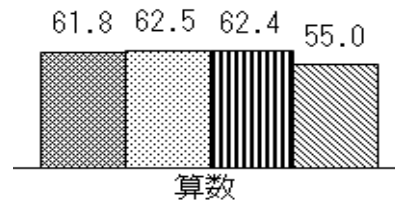
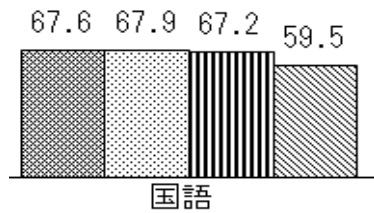
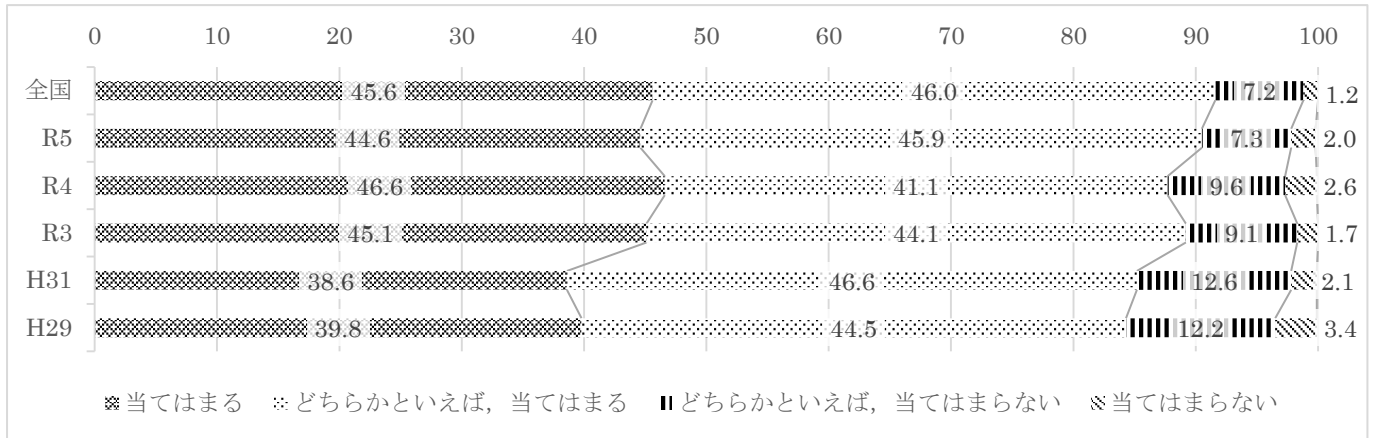
中学生



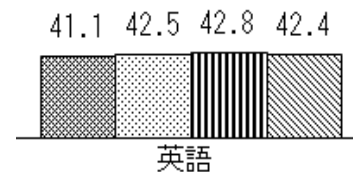
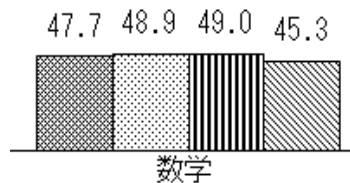
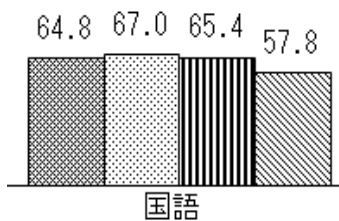
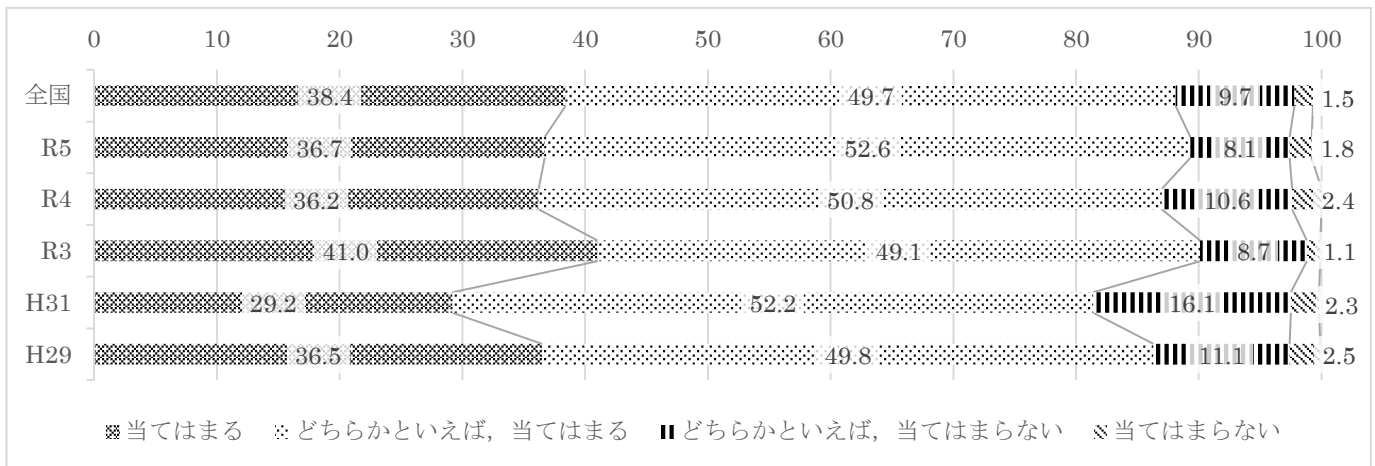
小学生は、肯定的回答割合が78.7%とR4年度の76.8%を上回っているが、全国の81.5%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が63.4%とR4年度の63.8%を下回り、全国の66.3%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が、H30年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】 (8)人が困っているときは、進んで助けていますか

小学生



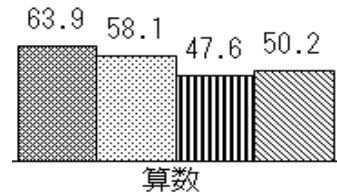
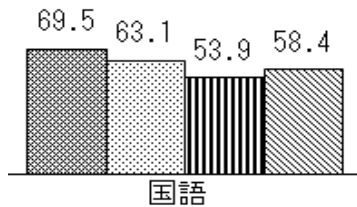
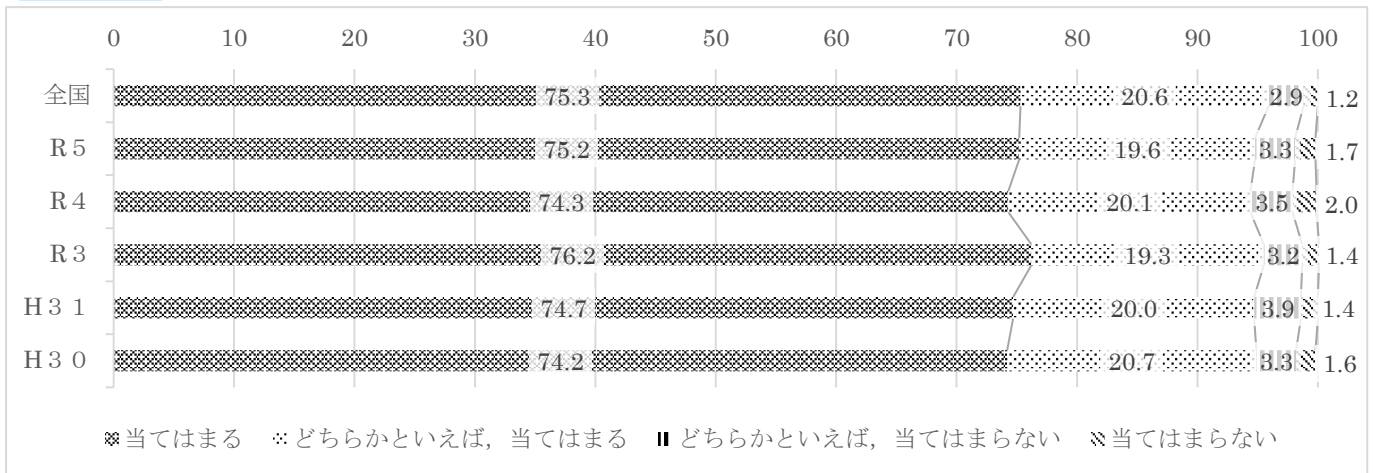
中学生



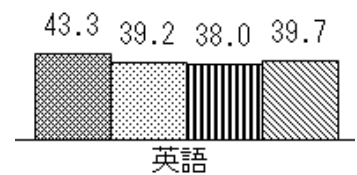
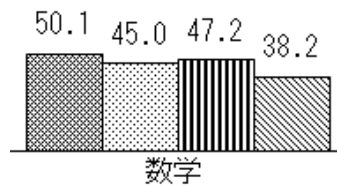
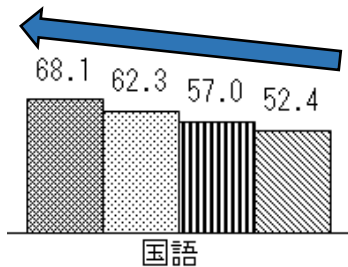
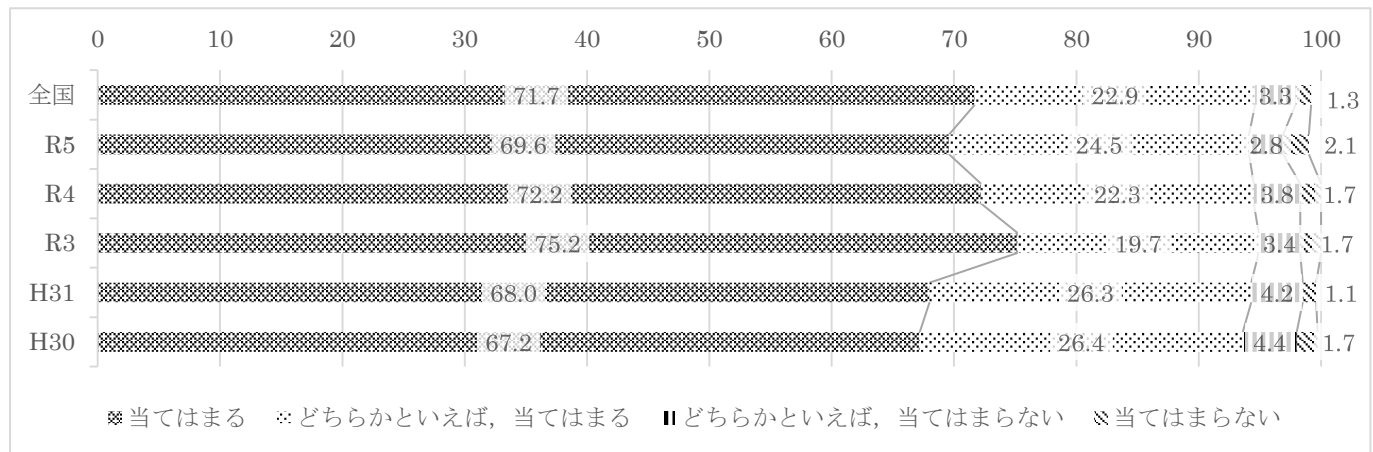
小学生は、肯定的回答割合が90.5%とR4年度の87.7%を上回っているが、全国の91.6%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が89.3%とR4年度の87.0%を上回り、全国の88.1%も上回っている。小学生は、肯定的回答割合が、H29年度以降において最も高くなっている。

【児童生徒質問紙】(11)人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学生



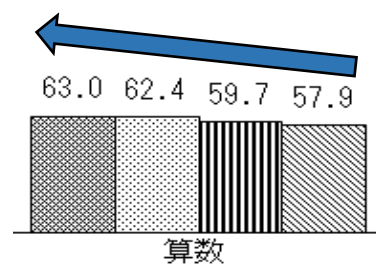
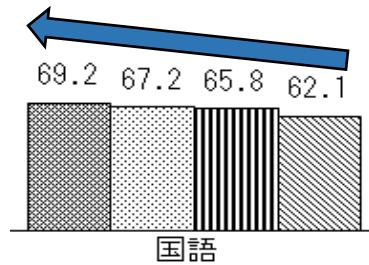
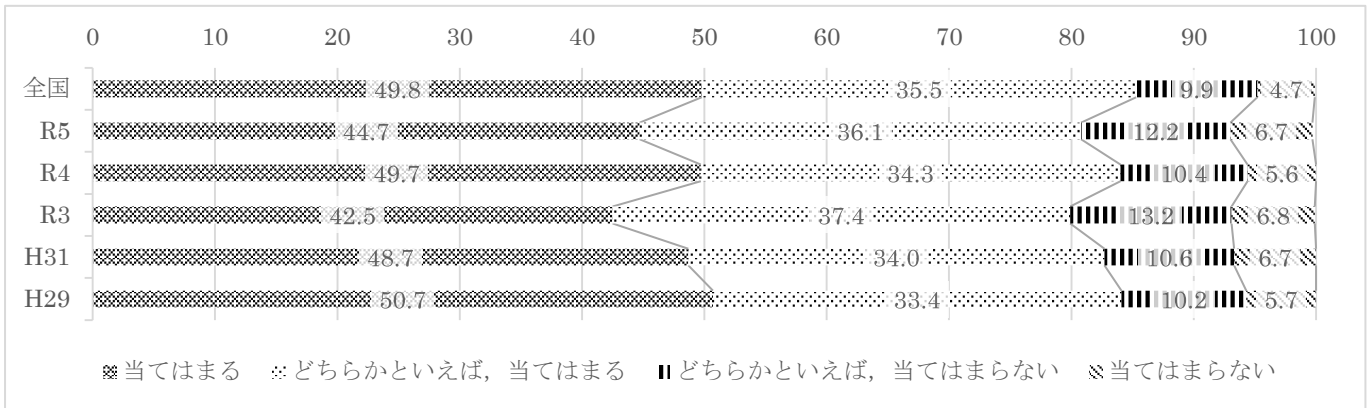
中学生



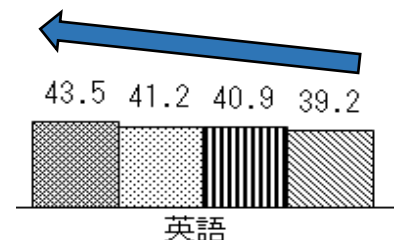
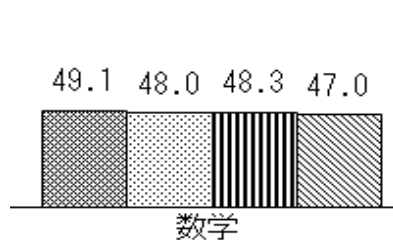
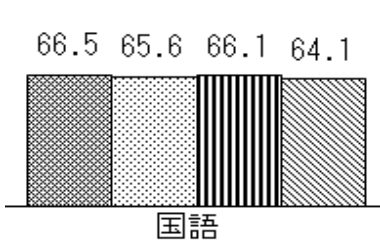
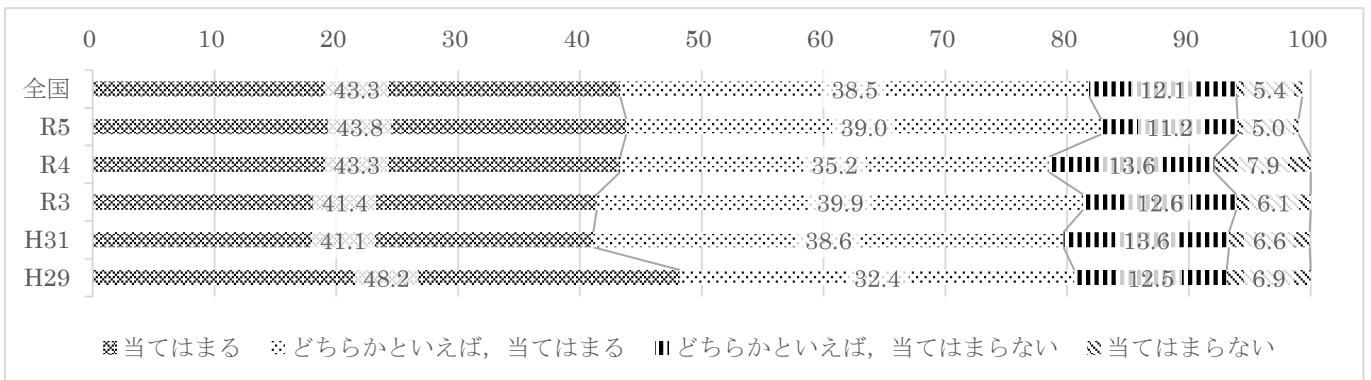
小学生は、肯定的回答割合が94.8%とR4年度の94.4%を上回っているが、全国の95.9%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が94.1%とR4年度の94.5%を下回り、全国の94.6%も下回っている。

【児童生徒質問紙】 (12)学校に行くのは楽しいと思いますか

小学生



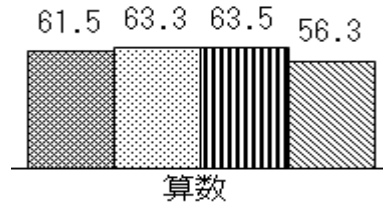
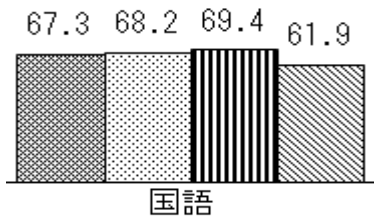
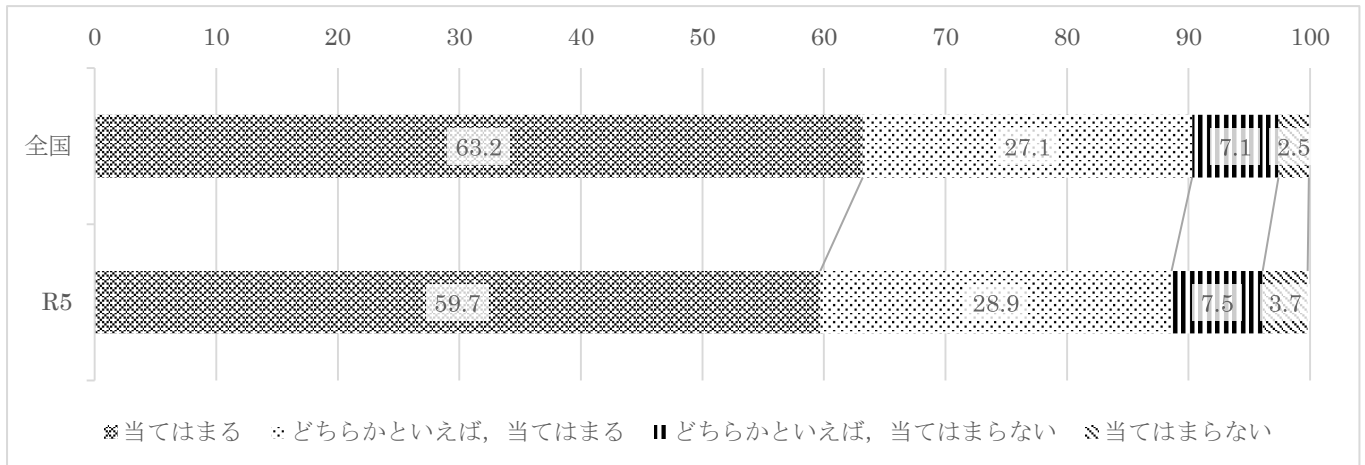
中学生



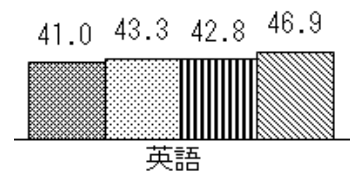
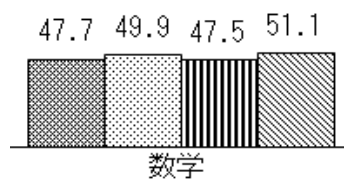
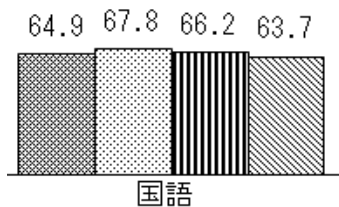
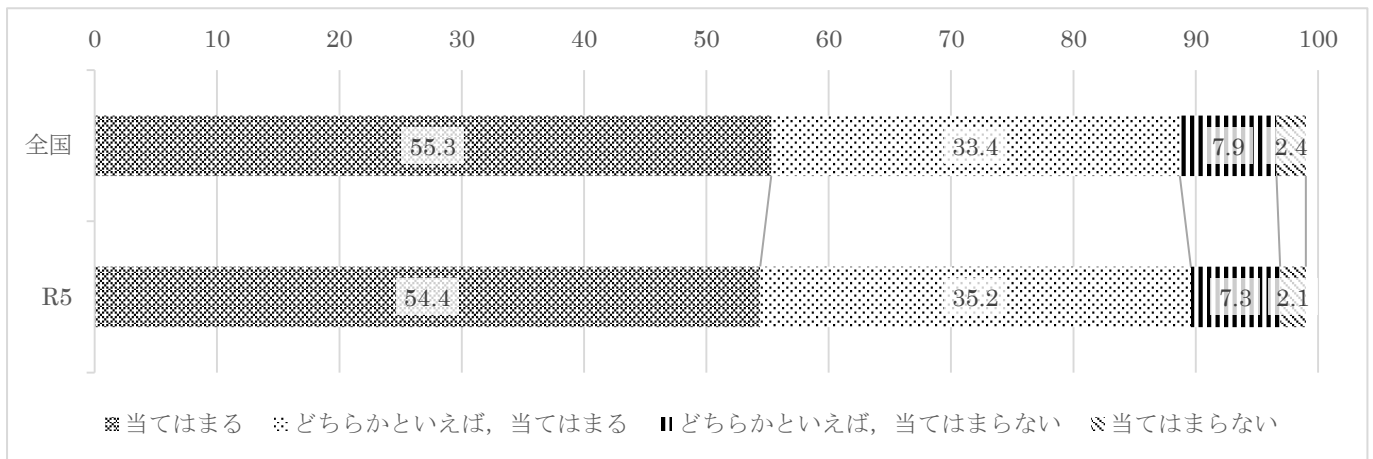
小学生は、肯定的回答割合が 80.8%と R4年度の 84.0%を下回り、全国の 85.3%も下回っている。
 中学生は、肯定的回答割合が 82.8%と R4年度の 78.5%を上回り、全国の 81.8%も上回っている。
 中学生は、肯定的回答割合が、H29年度以降において最も高くなっている。小学生は、学校に行くのは楽しいと思っている児童ほど教科の平均正答率が高い傾向にある。中学生は、学校に行くのは楽しいと思っている生徒ほど概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】 (14)友達関係に満足していますか

小学生



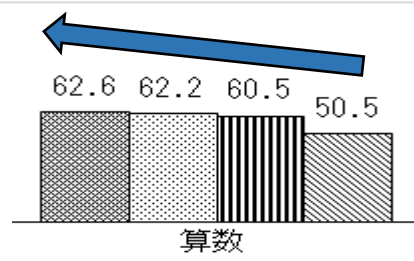
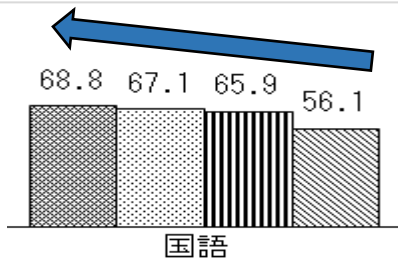
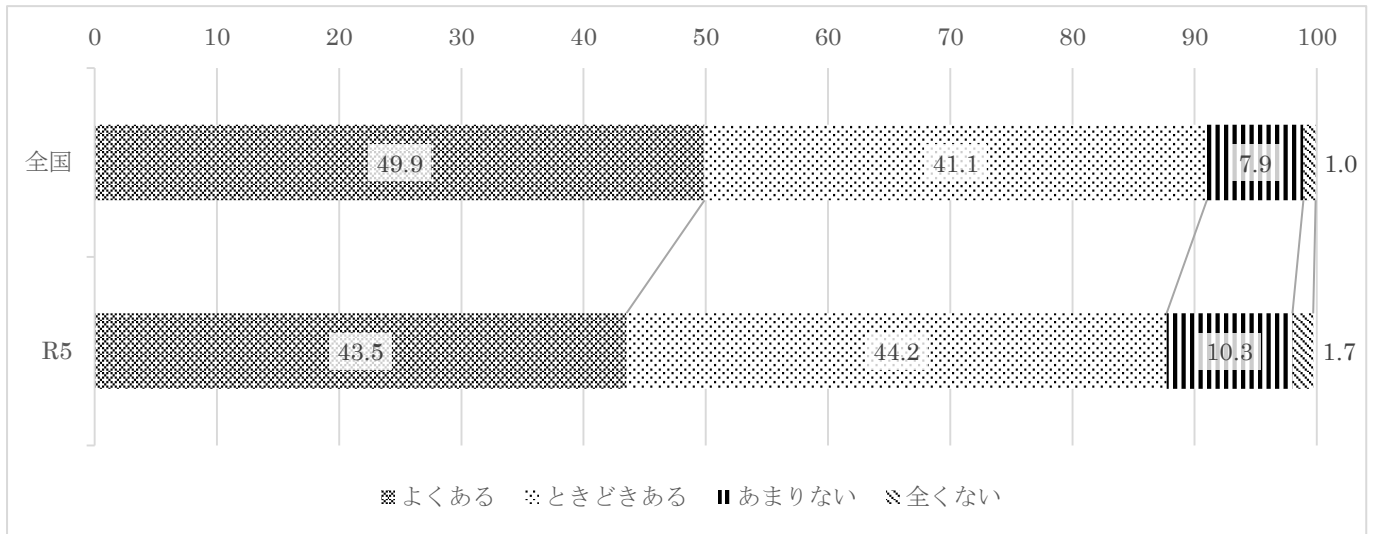
中学生



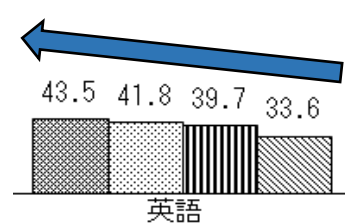
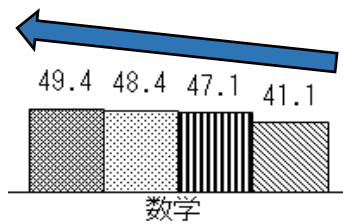
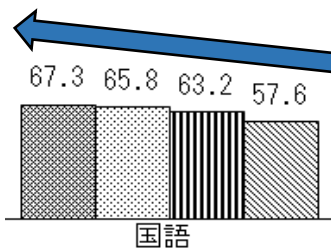
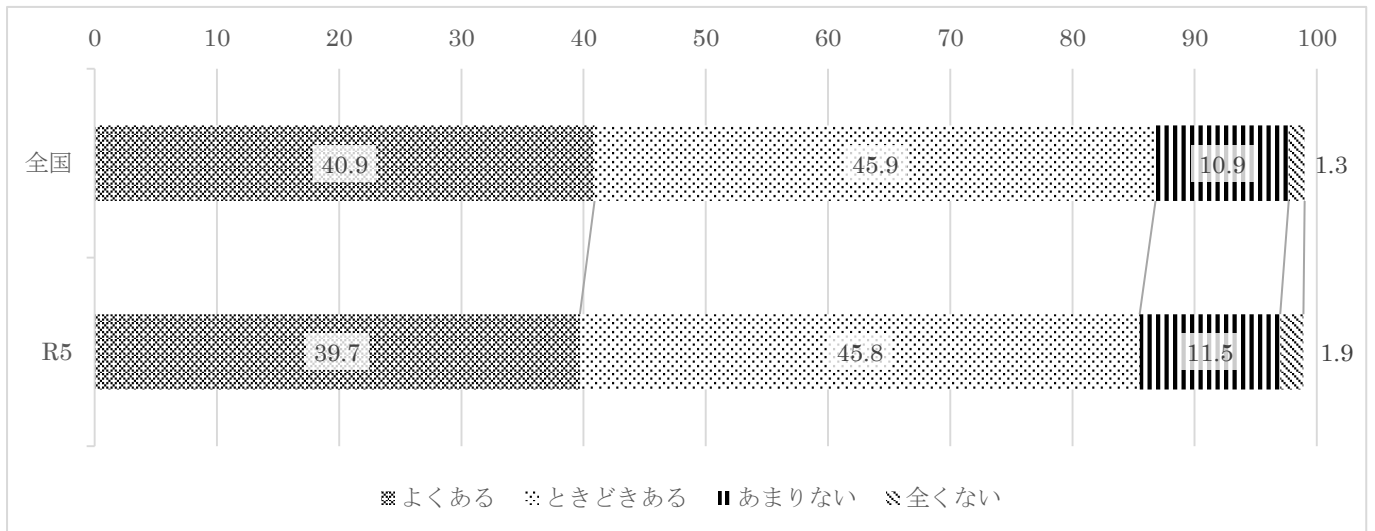
小学生は、肯定的回答割合が 88.6%と全国の 90.3%を下回っている。
中学生は、肯定的回答割合が 89.6%と全国の 88.7%を上回っている。

【児童生徒質問紙】 (15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

小学生



中学生

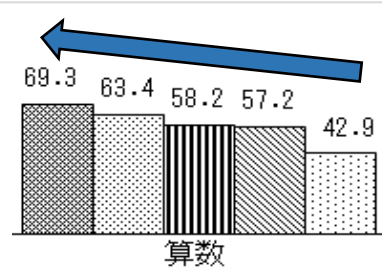
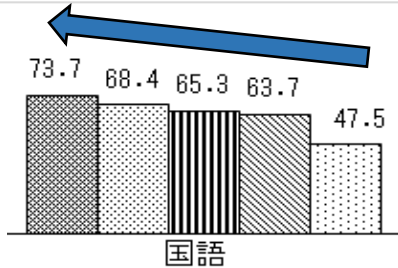
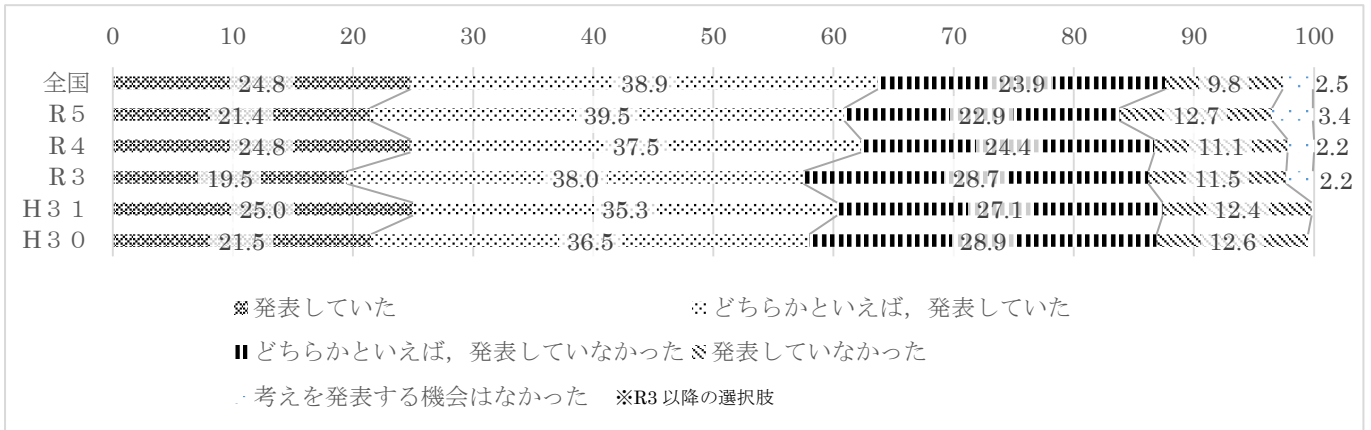


小学生は、肯定的回答割合が87.7%と全国の91.0%を下回っている。
 中学生は、肯定的回答割合が85.5%と全国の86.8%を下回っている。小中学生ともに普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

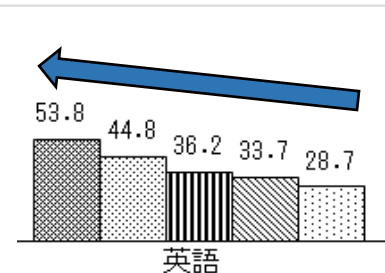
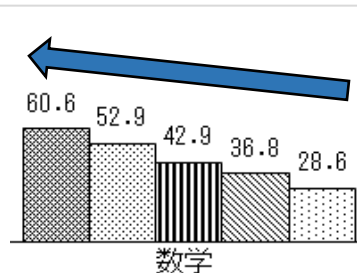
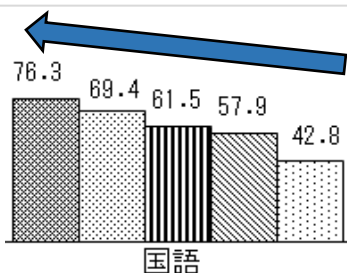
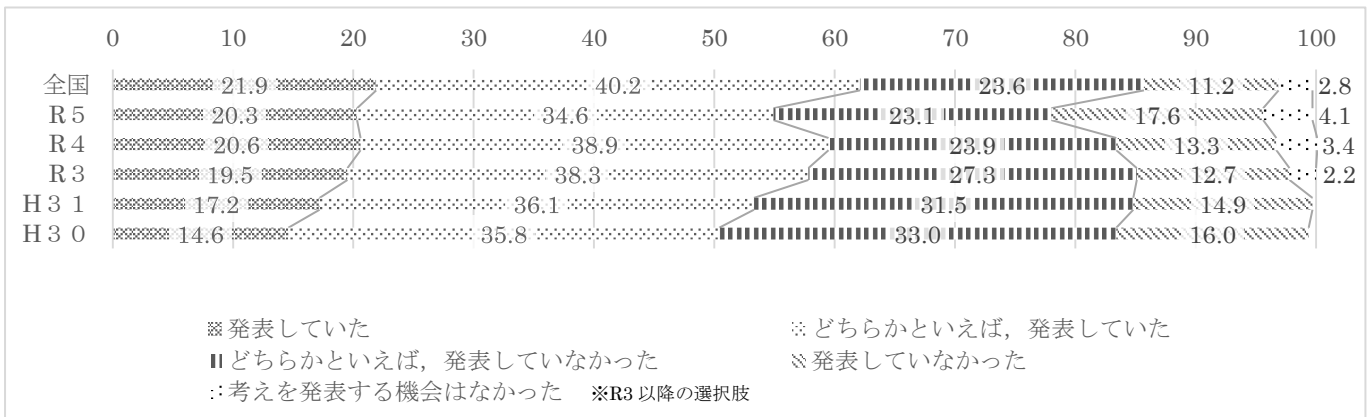
(2)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童質問紙(32)生徒質問紙(36)】5年生まで(中学生は1,2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学生



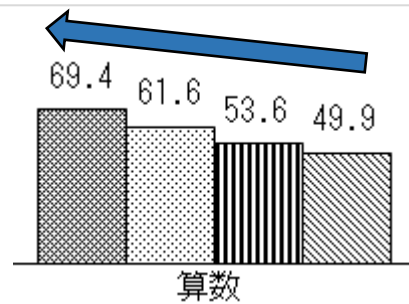
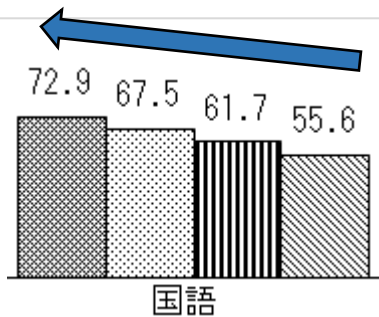
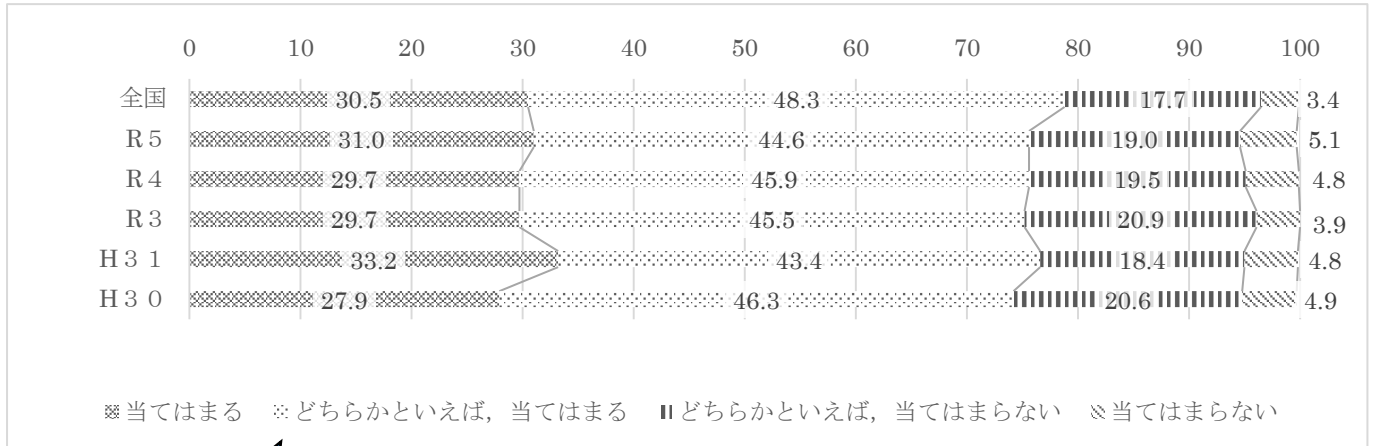
中学生



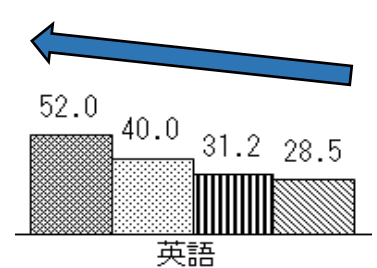
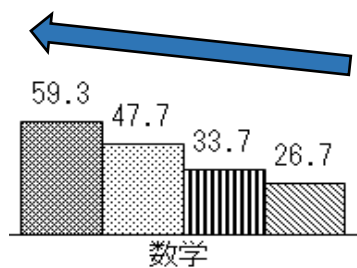
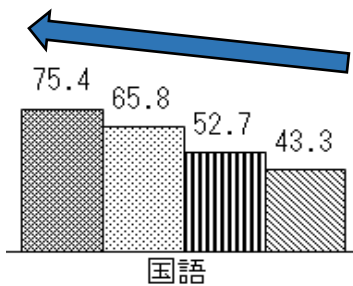
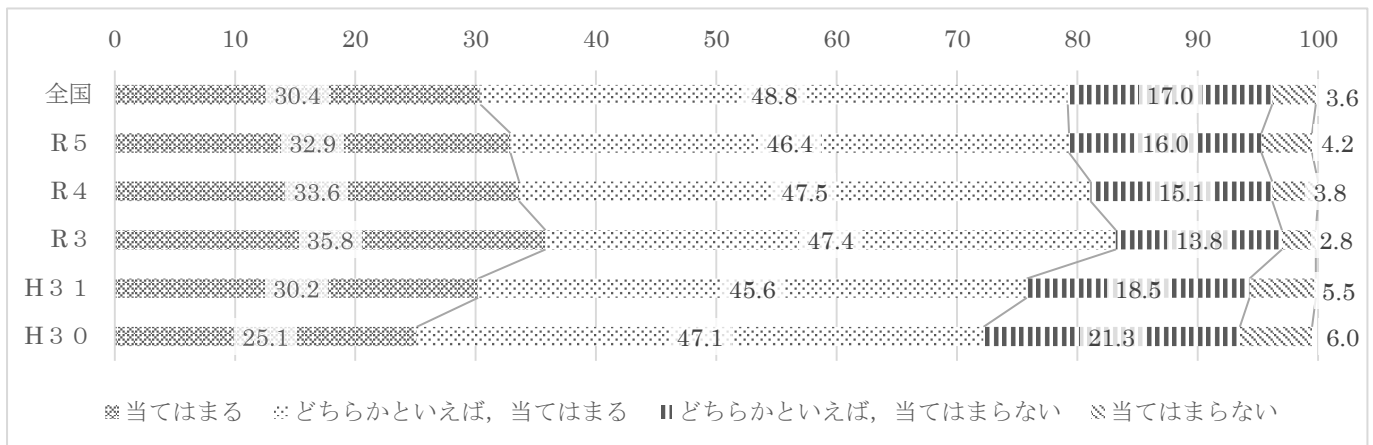
小学生は、肯定的回答割合が60.9%とR4年度の62.3%を下回り、全国の63.7%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が54.9%とR4年度の59.5%を下回り、全国の62.1%も下回っている。小中学生ともに自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童質問紙(33)生徒質問紙(37)】 5年生まで(中学生は1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学生



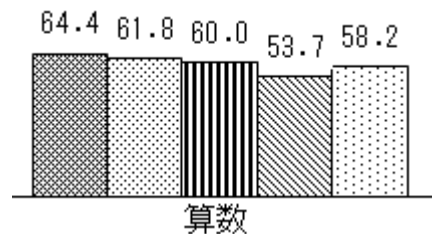
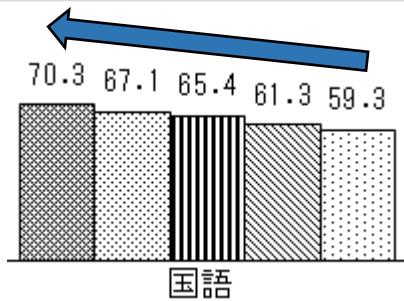
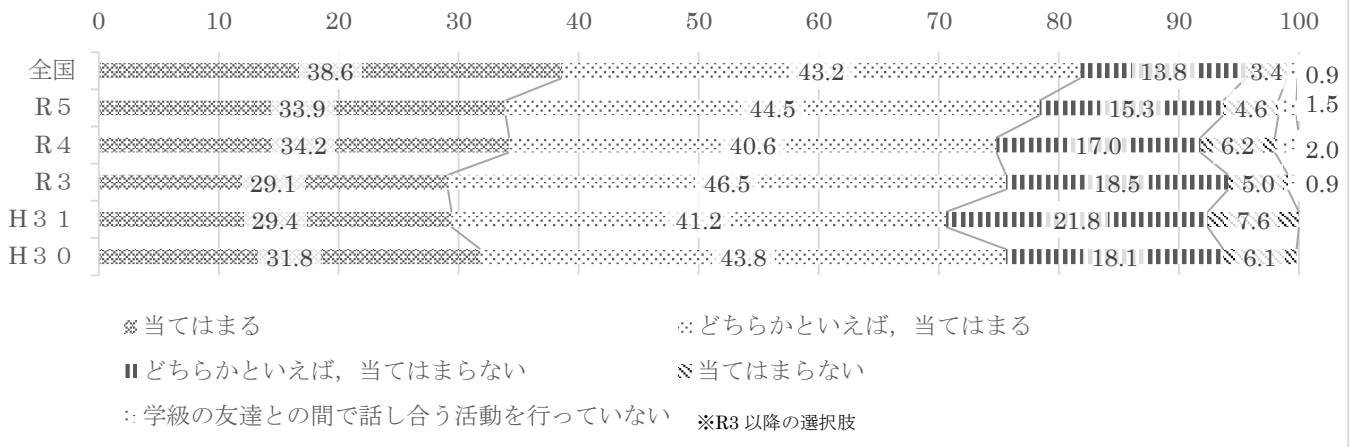
中学生



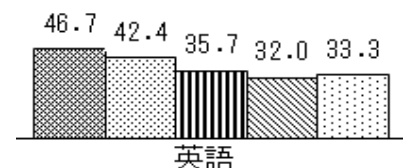
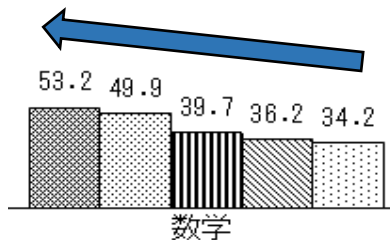
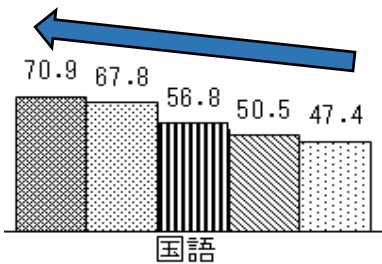
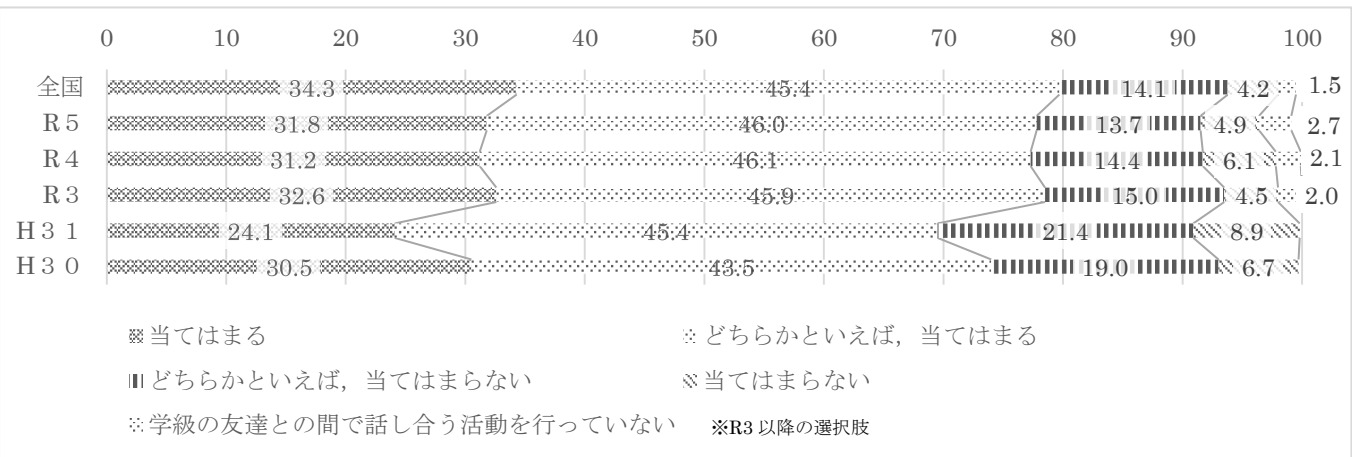
小学生は、肯定的回答割合が75.6%でR4年度の75.6%と同じ割合で、全国の78.8%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が79.3%とR4年度の81.1%を下回っているが、全国の79.2%は上回っている。小中学生ともに課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童質問紙(36)生徒質問紙(40)] 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

小学生



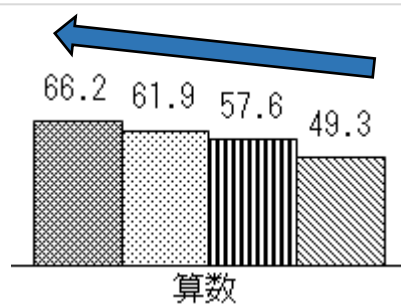
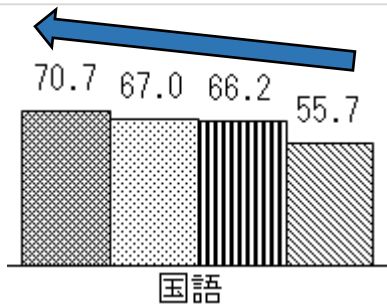
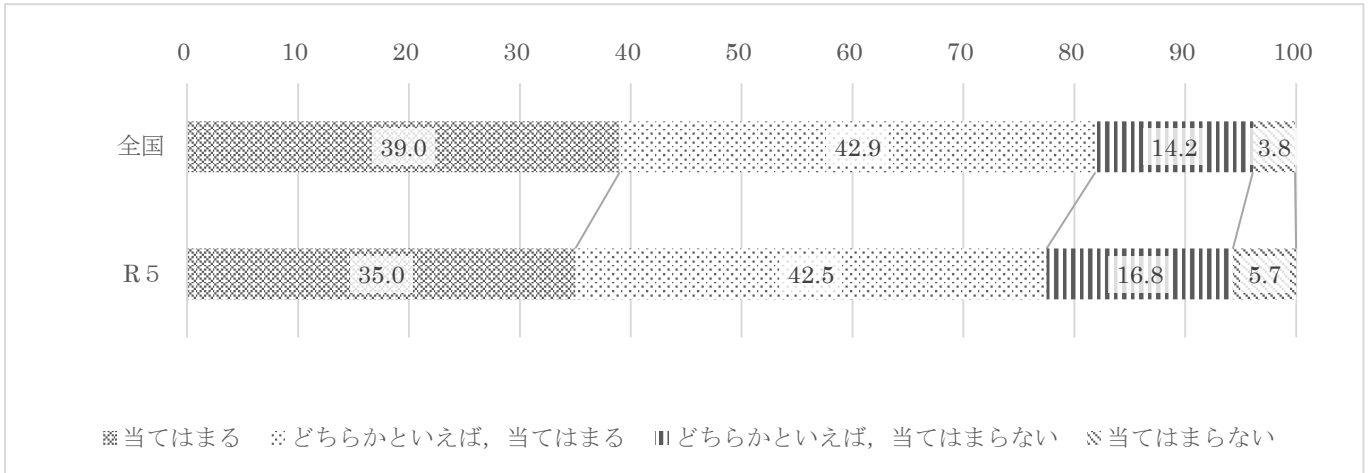
中学生



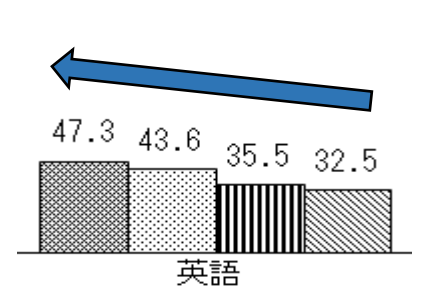
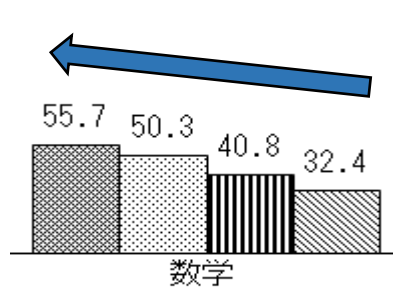
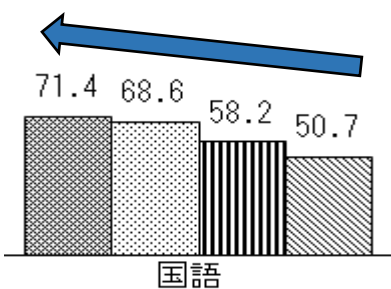
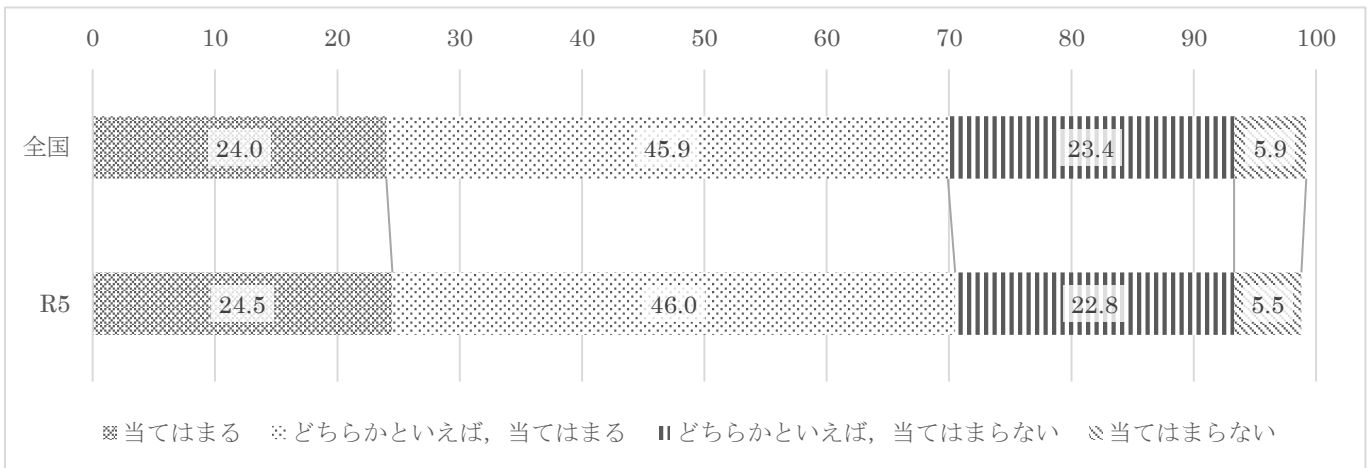
小学生は、肯定的回答割合が78.4%とR4年度の74.8%を上回っているが、全国の81.8%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が77.8%とR4年度の77.3%を上回っているが、全国の79.7%は下回っている。小学生では、肯定的回答割合が、H30年度以降において最も高くなっている。小中学生ともに学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます。小中学生ともに学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます。小中学生ともに学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます。

【児童質問紙(38)生徒質問紙(42)】 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか

小学生



中学生



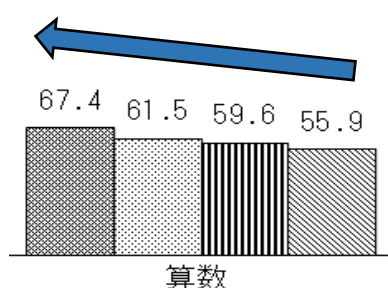
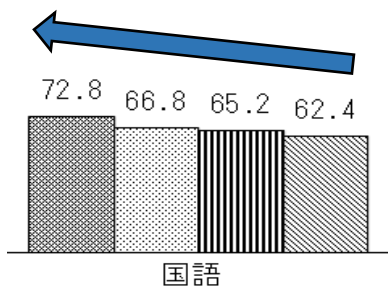
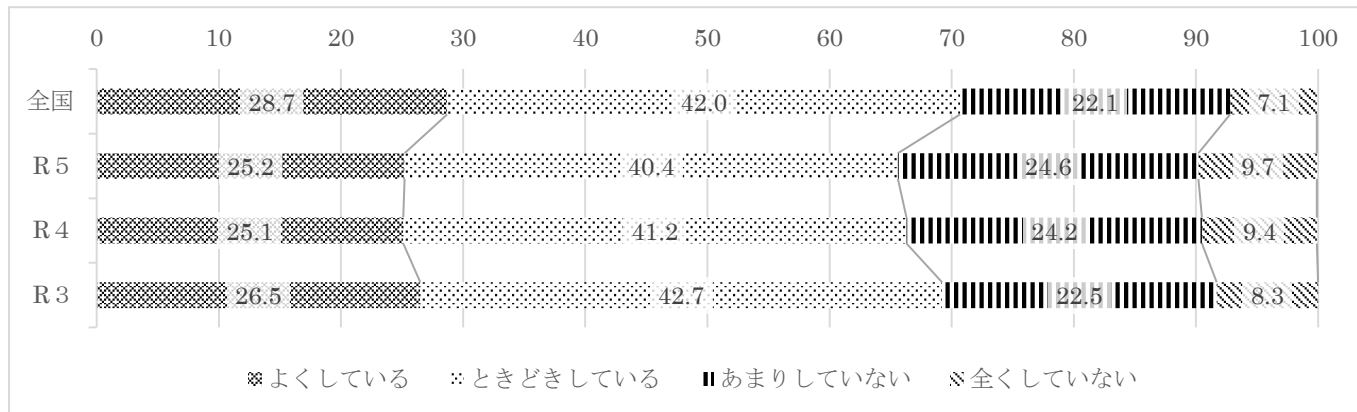
小学生は、肯定的回答割合が77.5%と全国の81.9%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が70.5%と全国の69.9%を上回っている。小中学生ともに授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

(3) 学習習慣, 学習環境等(家庭学習, 読書)に関する取組状況

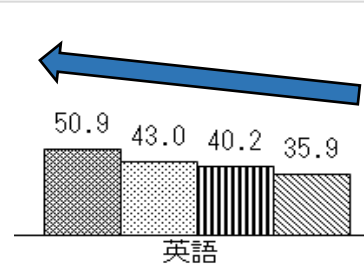
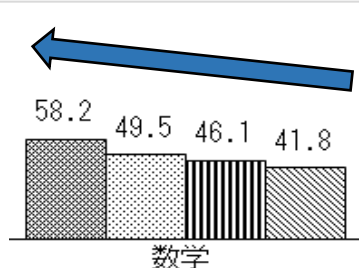
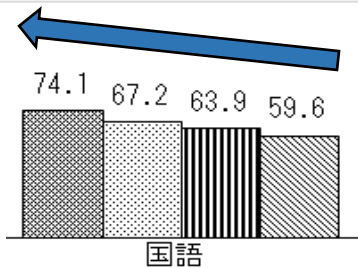
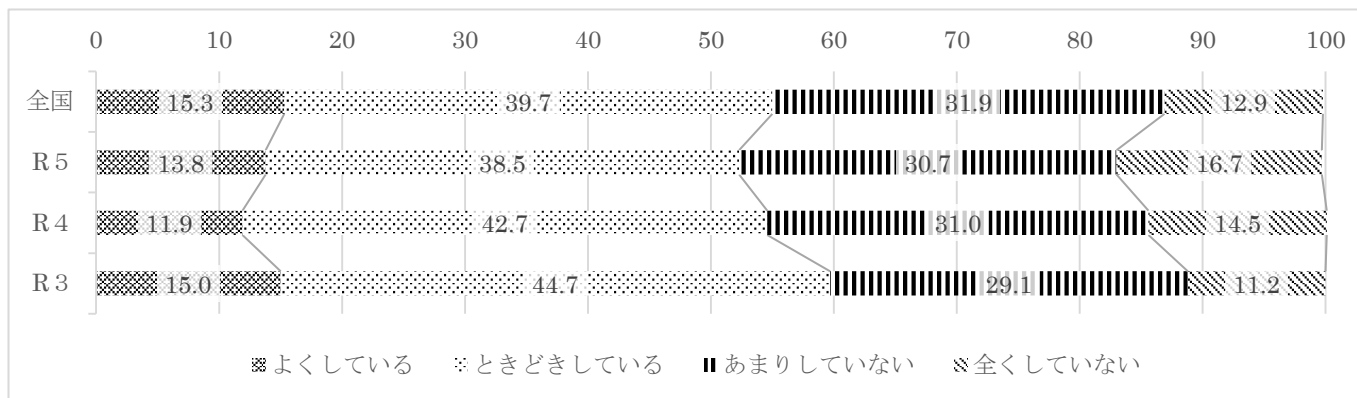
※R5はスクリーンタイムに関する質問項目なし

【児童生徒質問紙】(16)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

小学生



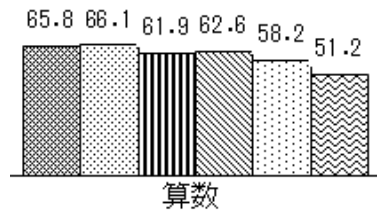
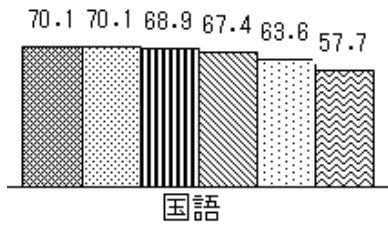
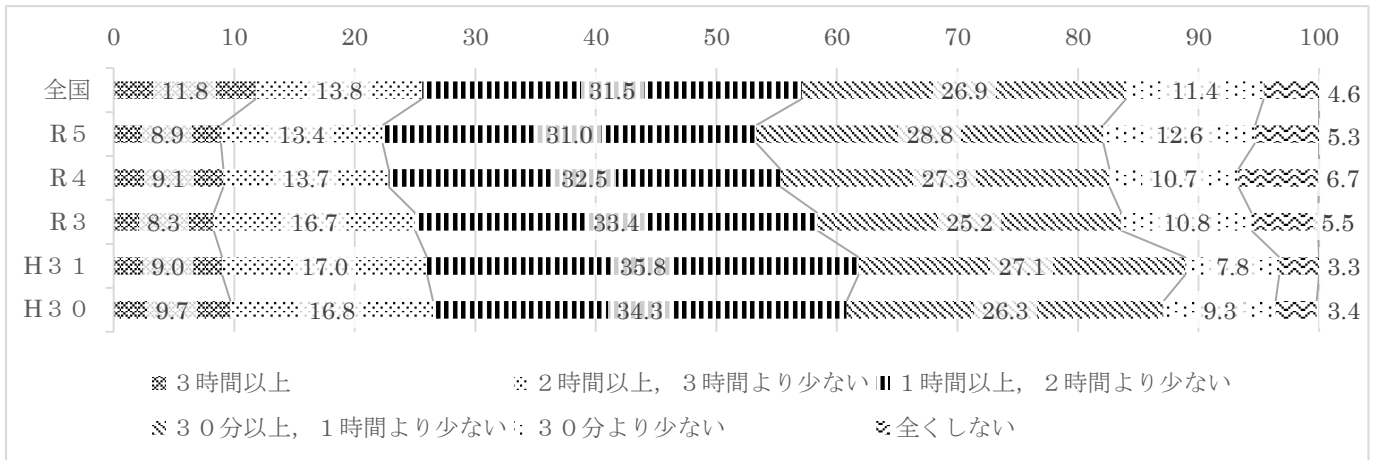
中学生



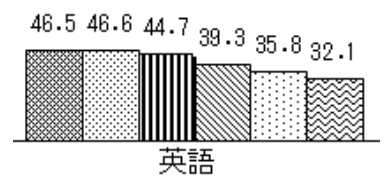
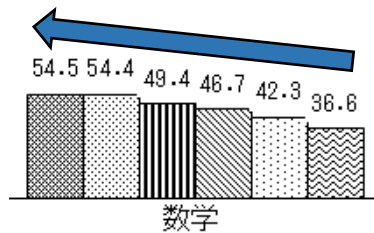
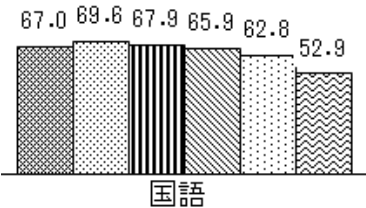
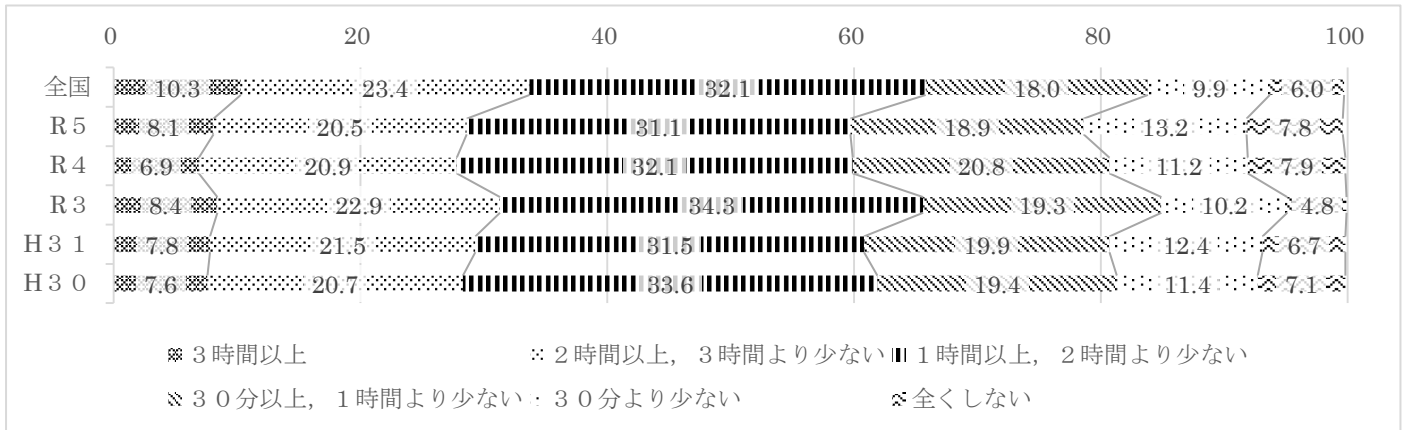
小学生は、肯定的回答割合が65.6%とR4年度の66.3%を下回り、全国の70.7%も下回っている。中学生は、肯定的回答割合が52.3%と、R4年度の54.6%を下回り、全国の55.0%も下回っている。小中学生ともに肯定的回答割合が、R3年度以降において最も低くなっている。小中学生ともに家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙】(17)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生



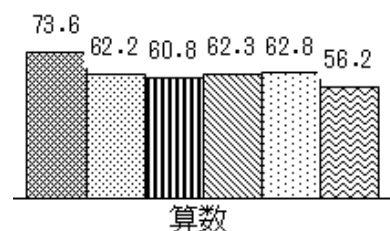
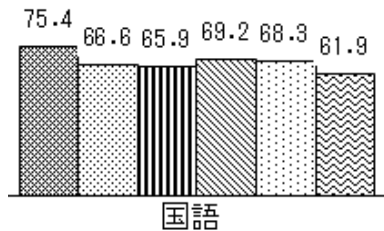
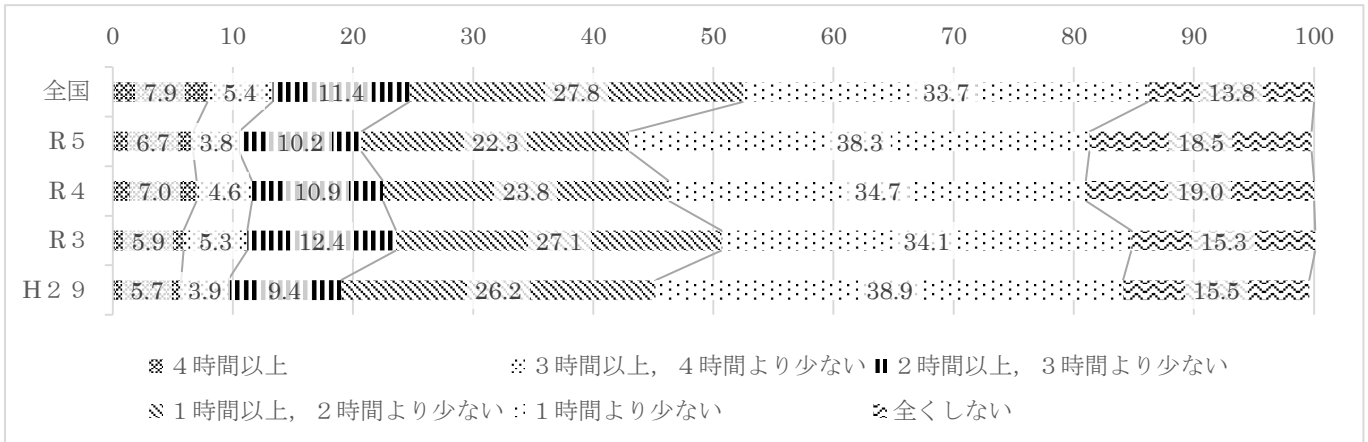
中学生



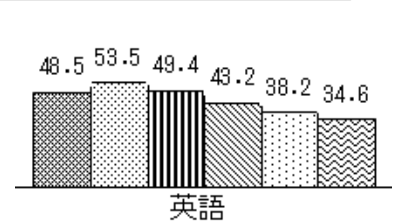
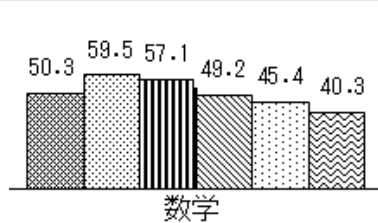
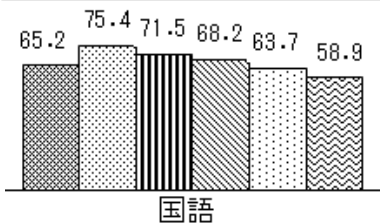
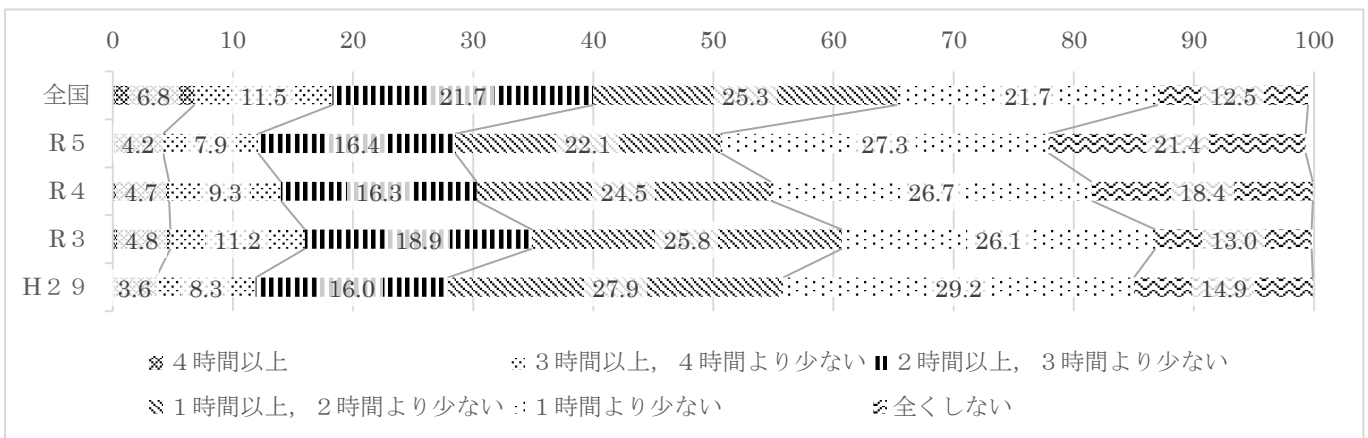
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が53.3%とR4年度の55.3%を下回り、全国の57.1%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が59.7%とR4年度の59.9%を下回り、全国の65.8%も下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、H30年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(18)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生



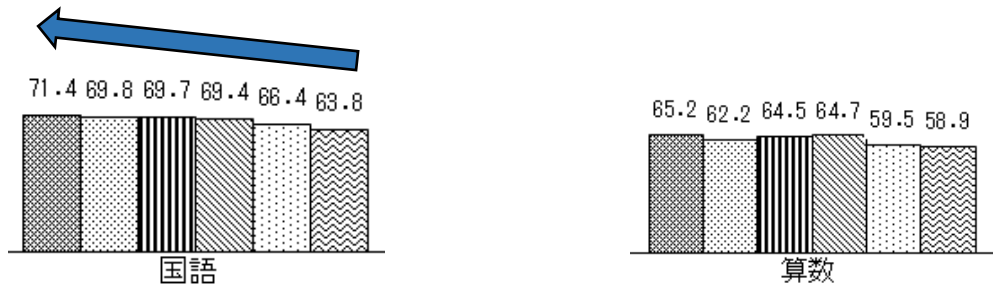
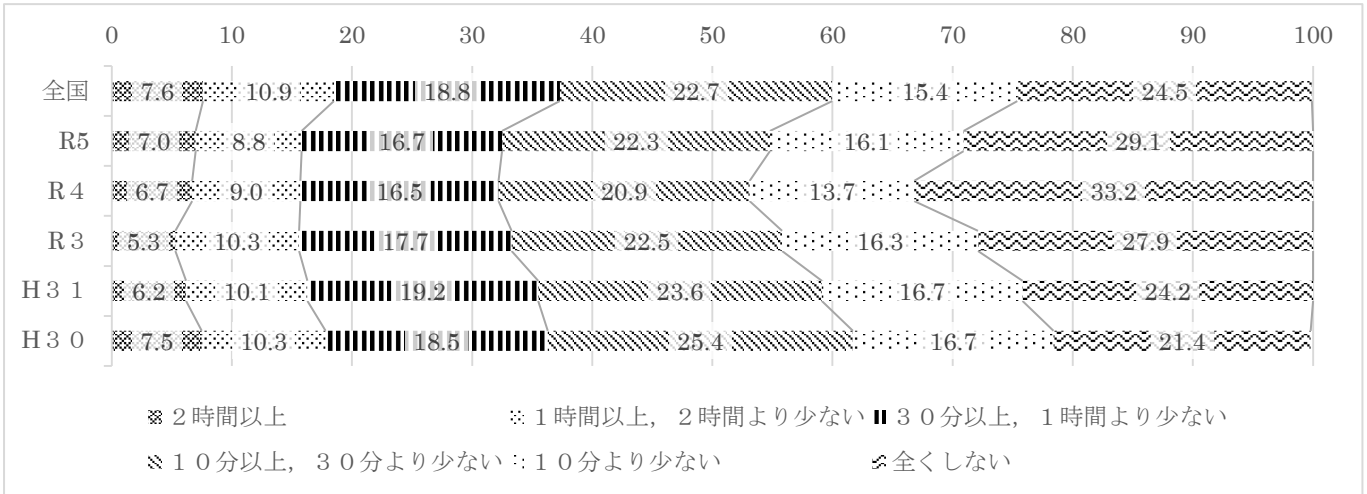
中学生



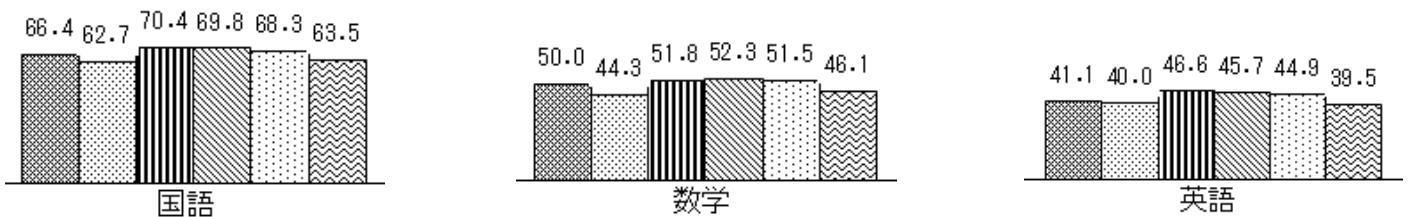
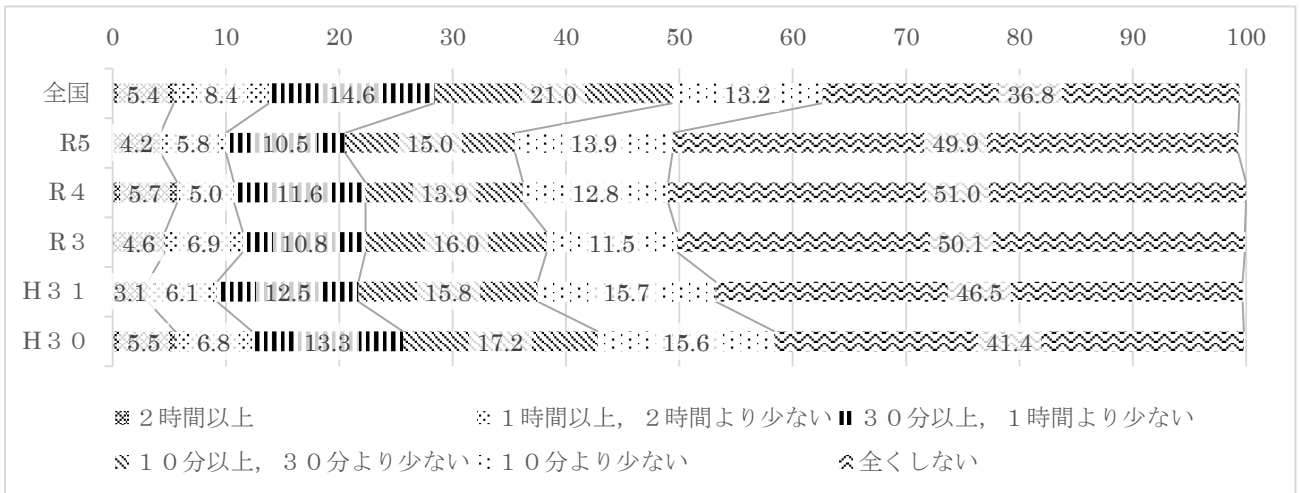
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が43.0%とR4年度の46.3%を下回り、全国の52.5%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が50.6%とR4年度の54.8%を下回り、全国の65.3%も下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、H29年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(20)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

小学生



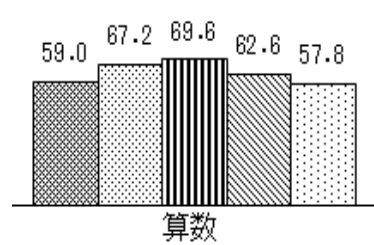
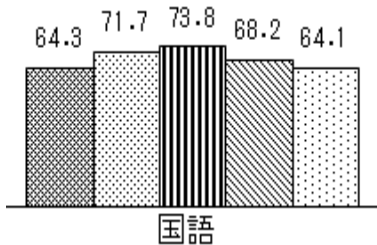
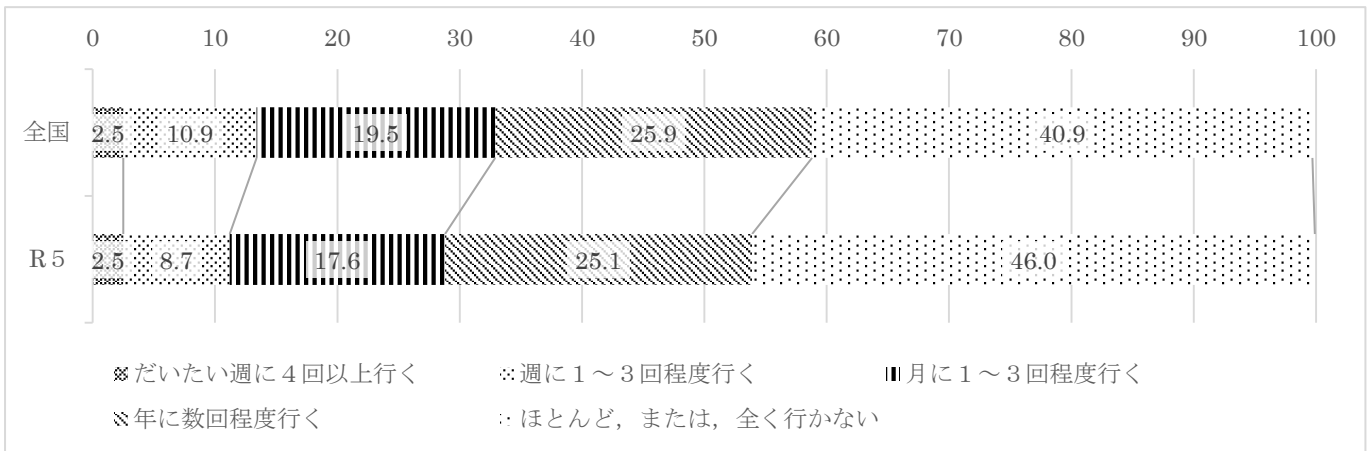
中学生



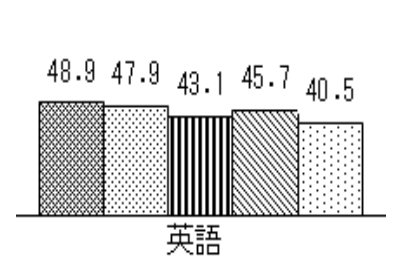
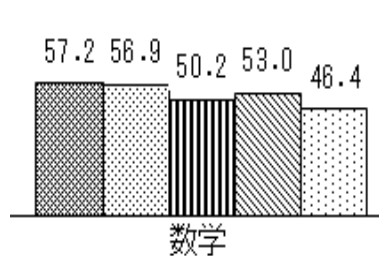
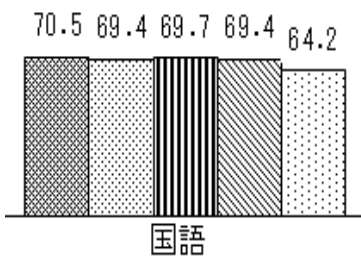
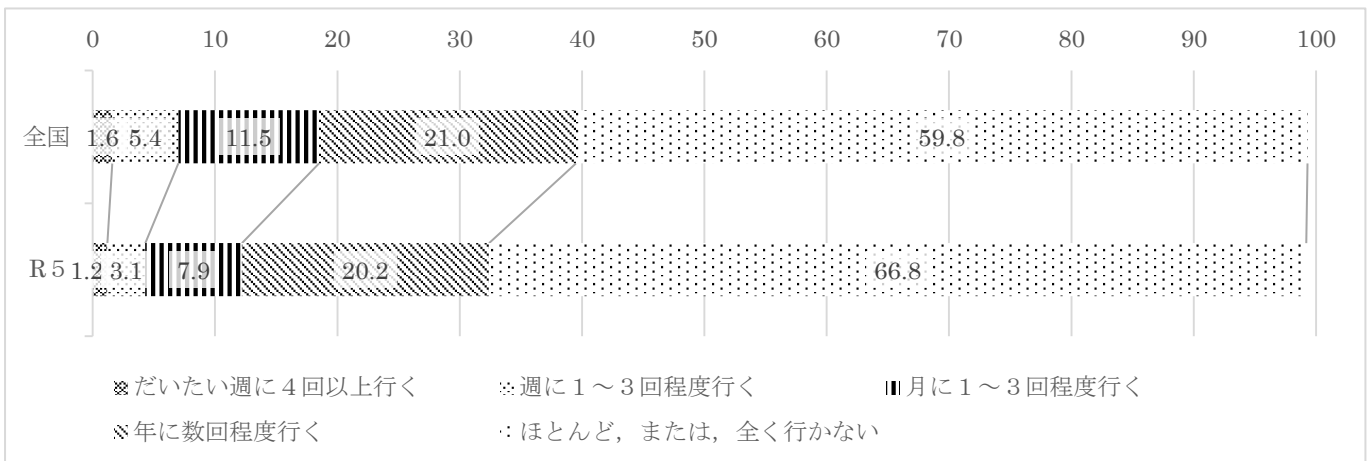
小学生は、「10分以上」と回答した割合が54.8%とR4年度の53.1%を上回っているが、全国の60.0%は下回っている。中学生は、「10分以上」と回答した割合が35.5%とR4年度の36.2%を下回り、全国の49.4%も下回っている。中学生は「10分以上」と回答した割合が、H30年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙】(21)昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか

小学生



中学生

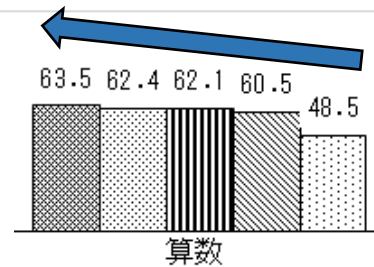
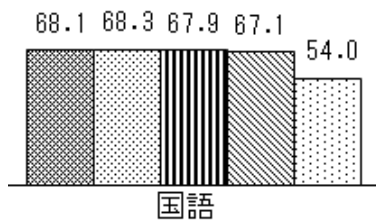
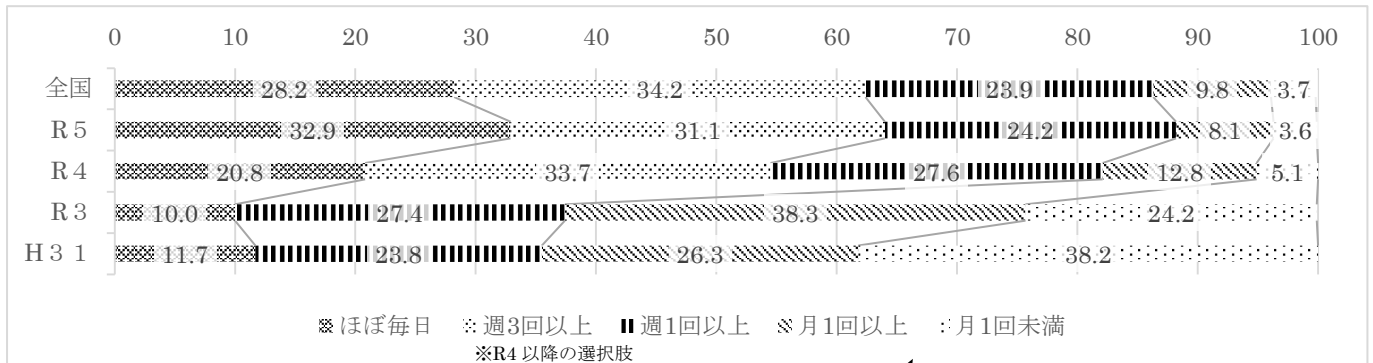


小学生は、「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」「月に1～3回程度行く」と回答した割合が28.8%と全国の32.9%を下回っている。中学生は、「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」「月に1～3回程度行く」と回答した割合が12.2%と全国の18.5%を下回っている。

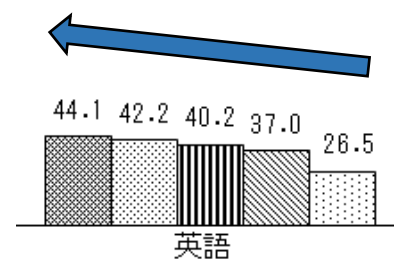
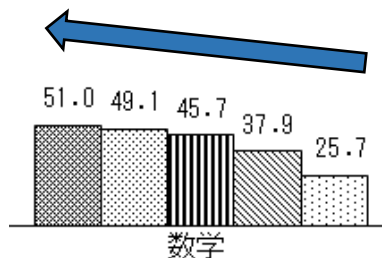
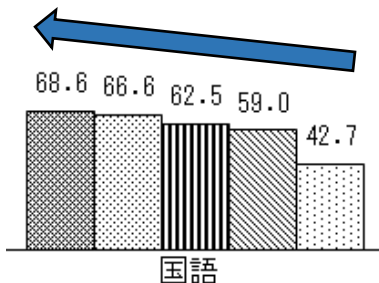
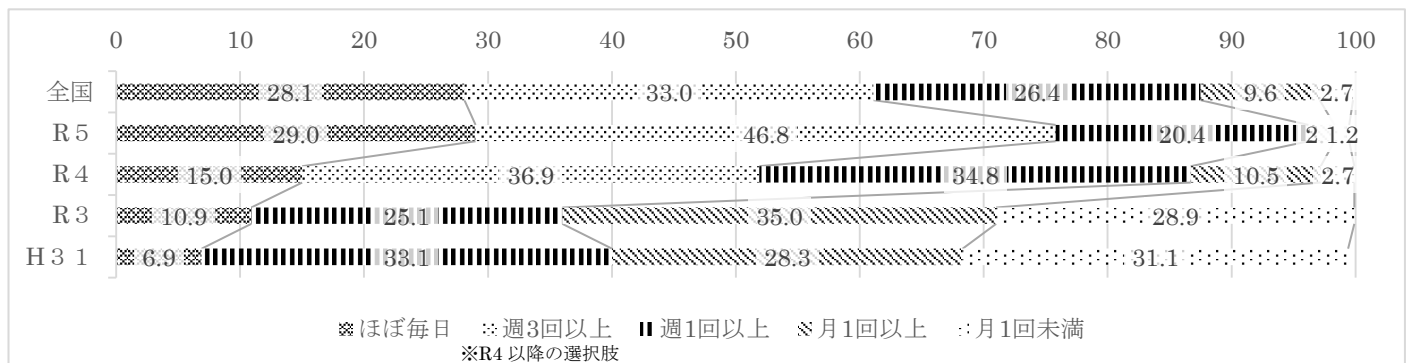
(4)ICT を活用した学習状況

【児童質問紙(29)生徒質問紙(33)] 5年生まで(中学生は1・2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学生



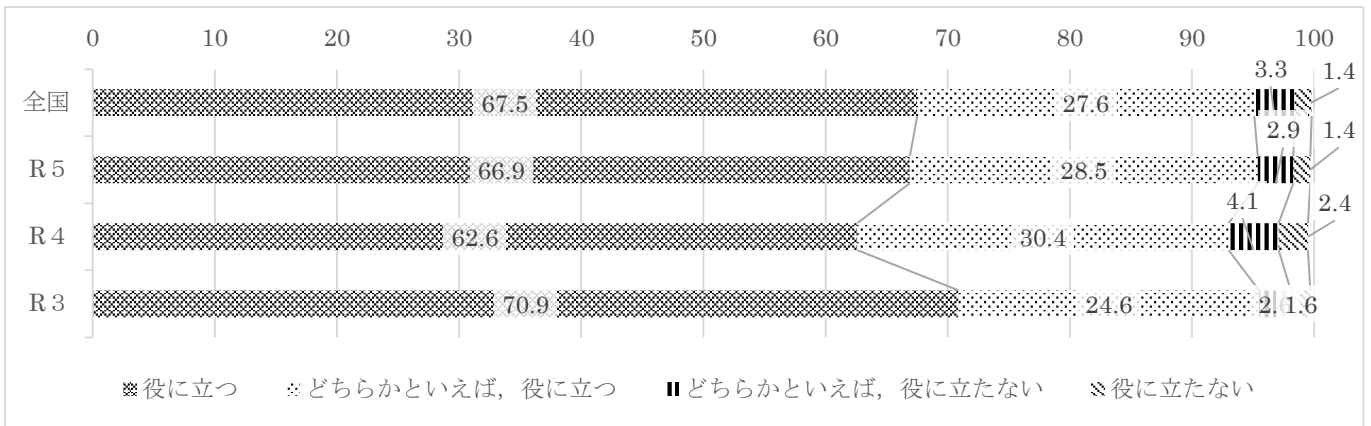
中学生



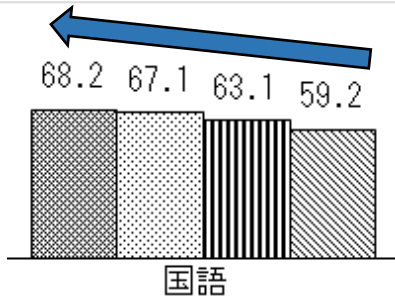
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が88.2%とR4年度の82.1%を上回り、全国の86.3%を上回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が96.2%とR4年度の86.7%を上回り、全国の87.5%を上回っている。小中学生ともに「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合が、前年度よりも大きく上回り、H31年度以降において最も高くなっている。小学生は授業でのICT機器使用頻度が高い児童ほど、概ね教科の平均正答率が高く、中学生は授業でのICT機器使用頻度が高い生徒ほど、教科の平均正答率が高い。

【児童質問紙(30)生徒質問紙(34)] 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

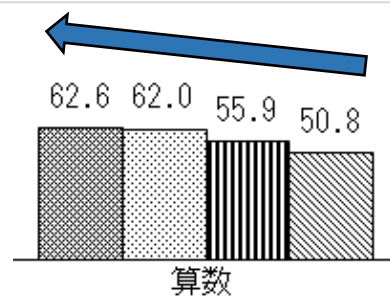
小学生



※役に立つ ※どちらかといえば、役に立つ ■どちらかといえば、役に立たない ※役に立たない

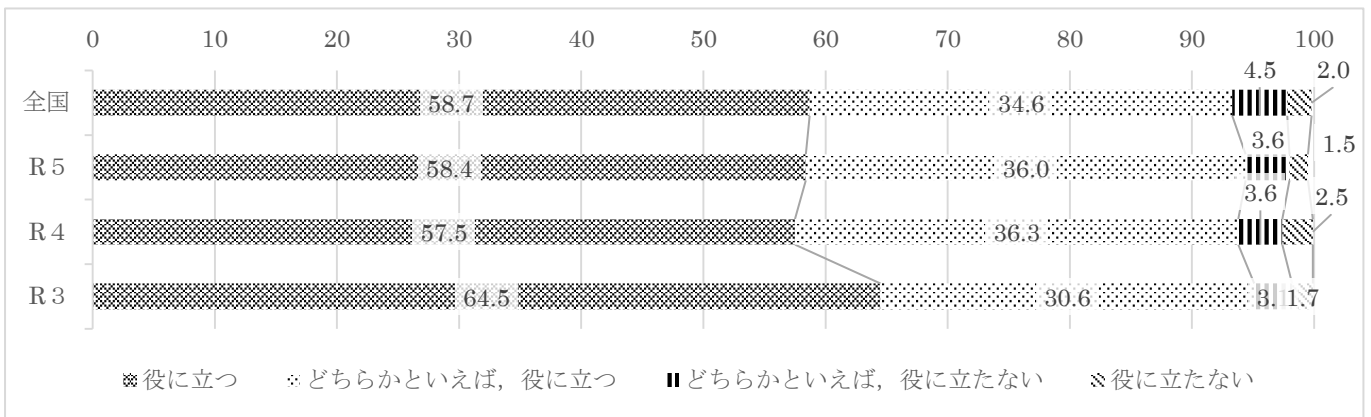


国語

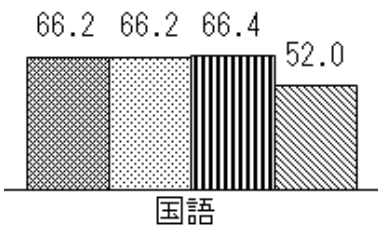


算数

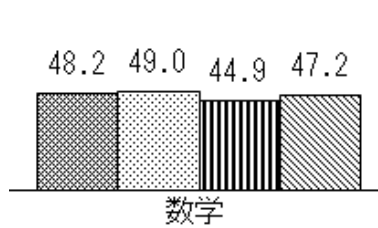
中学生



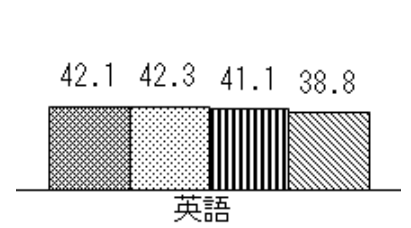
※役に立つ ※どちらかといえば、役に立つ ■どちらかといえば、役に立たない ※役に立たない



国語



数学

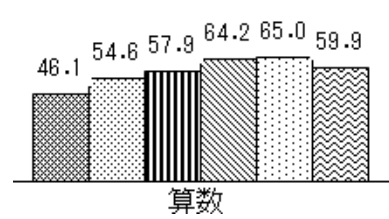
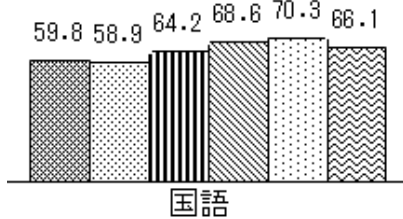
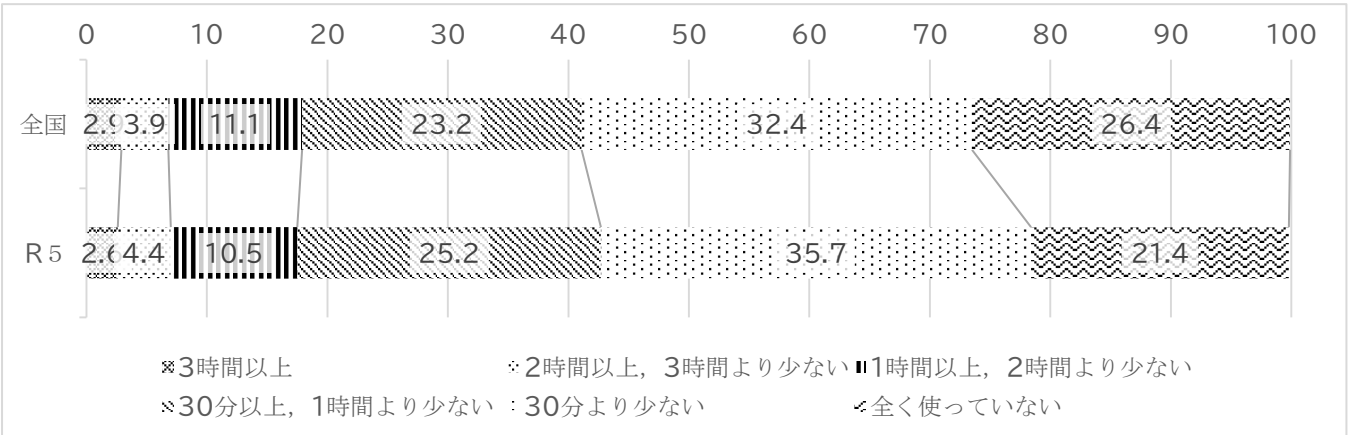


英語

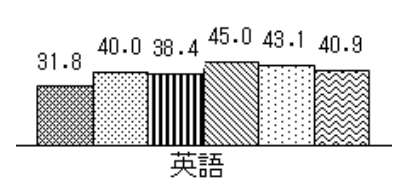
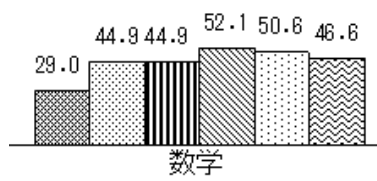
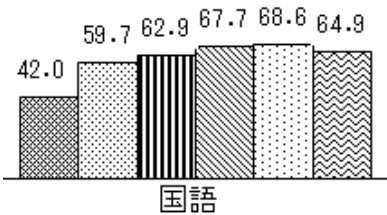
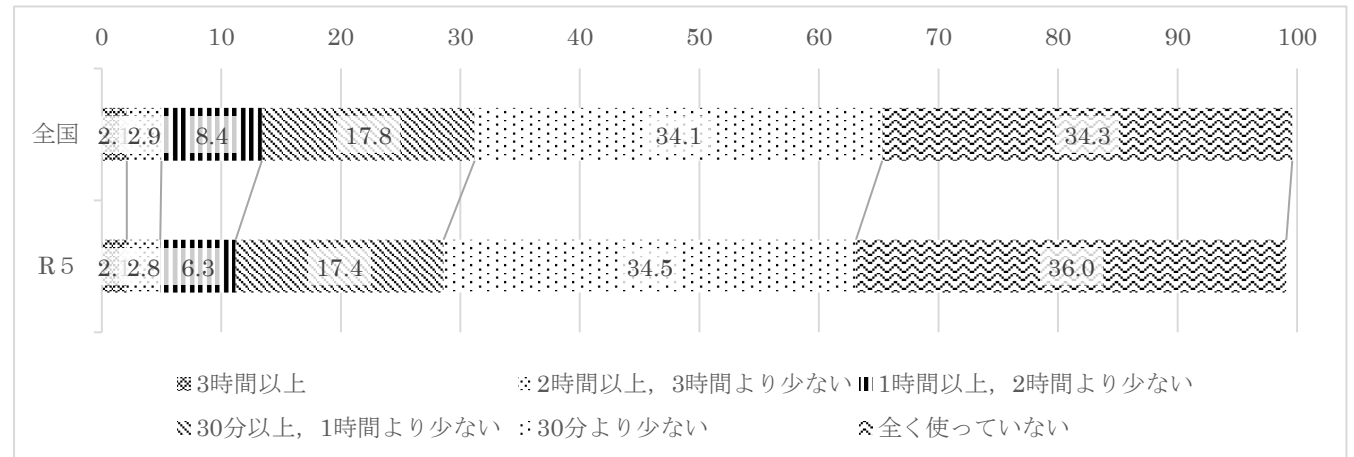
小学生は、肯定的回答割合が95.4%とR4年度の93.0%を上回り、全国の95.1%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が94.4%とR4年度の93.8%を上回り、全国の93.3%も上回っている。小学生は学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思っている児童ほど、教科の平均正答率が高い。

【児童質問紙(31)生徒質問紙(35)]学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日),1日当たりどれくらいの時間,PC・タブレットなどのICT機器を,勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)

小学生



中学生



小学生は、「全く使っていない」と回答した割合が21.4%と全国の26.4%を下回っている。中学生は、「全く使っていない」と回答した割合が36.0%と全国の34.3%を上回っている。